

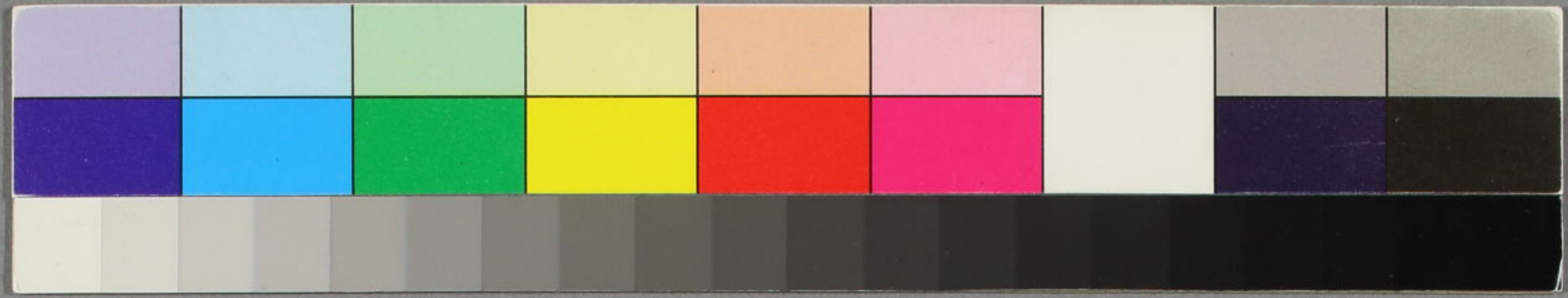


色蕉袖草紙  
發賣

|      |
|------|
| ~ 5  |
| 5618 |
| 2    |







門 八  
號 5618  
卷 2



春

花屋庵換

正月

春

草も木もさきさきとけりては春 京 貞徳  
 相方の人もさきさきとけりては春 大井 宗因  
 まきたつてゆき九日れは春 大井 色蕉  
 まきたつてゆき九日れは春 大井 野坡  
 春らや齒菜もさきさきとけりては春 大井 許六  
 花もさきさきとけりては春 大井 杉風  
 春たつてゆき九日れは春 大井 牧童  
 ひろくささきさきとけりては春 大井 園女  
 羽卯や花の春もさきさきとけりては春 大井 半残





香

柴花もどく南き色花は<sup>京</sup>諸九

之月時て雀は<sup>下</sup>のうら<sup>京</sup>嵐雪

之りや家<sup>京</sup>の懐の太刀は<sup>京</sup>去来

之りや<sup>京</sup>偶<sup>京</sup>の雪は<sup>京</sup>良品

之りや<sup>京</sup>雪<sup>京</sup>は<sup>京</sup>むん<sup>京</sup>は<sup>京</sup>也<sup>京</sup>有

之りや<sup>京</sup>雪<sup>京</sup>も<sup>京</sup>は<sup>京</sup>之<sup>京</sup>新<sup>京</sup>之<sup>京</sup>大<sup>京</sup>完

之りや<sup>京</sup>雪<sup>京</sup>も<sup>京</sup>は<sup>京</sup>之<sup>京</sup>新<sup>京</sup>之<sup>京</sup>大<sup>京</sup>完

初

之りや<sup>京</sup>雪<sup>京</sup>も<sup>京</sup>は<sup>京</sup>之<sup>京</sup>新<sup>京</sup>之<sup>京</sup>大<sup>京</sup>完

初

之りや<sup>京</sup>雪<sup>京</sup>も<sup>京</sup>は<sup>京</sup>之<sup>京</sup>新<sup>京</sup>之<sup>京</sup>大<sup>京</sup>完

新

之りや<sup>京</sup>雪<sup>京</sup>も<sup>京</sup>は<sup>京</sup>之<sup>京</sup>新<sup>京</sup>之<sup>京</sup>大<sup>京</sup>完

駕

之りや<sup>京</sup>雪<sup>京</sup>も<sup>京</sup>は<sup>京</sup>之<sup>京</sup>新<sup>京</sup>之<sup>京</sup>大<sup>京</sup>完

鷲

之りや<sup>京</sup>雪<sup>京</sup>も<sup>京</sup>は<sup>京</sup>之<sup>京</sup>新<sup>京</sup>之<sup>京</sup>大<sup>京</sup>完

之りや<sup>京</sup>雪<sup>京</sup>も<sup>京</sup>は<sup>京</sup>之<sup>京</sup>新<sup>京</sup>之<sup>京</sup>大<sup>京</sup>完

聖

初<sup>下</sup>之りや<sup>京</sup>雪<sup>京</sup>も<sup>京</sup>は<sup>京</sup>之<sup>京</sup>新<sup>京</sup>之<sup>京</sup>大<sup>京</sup>完

初<sup>下</sup>之りや<sup>京</sup>雪<sup>京</sup>も<sup>京</sup>は<sup>京</sup>之<sup>京</sup>新<sup>京</sup>之<sup>京</sup>大<sup>京</sup>完

初

初<sup>下</sup>之りや<sup>京</sup>雪<sup>京</sup>も<sup>京</sup>は<sup>京</sup>之<sup>京</sup>新<sup>京</sup>之<sup>京</sup>大<sup>京</sup>完

御

初<sup>下</sup>之りや<sup>京</sup>雪<sup>京</sup>も<sup>京</sup>は<sup>京</sup>之<sup>京</sup>新<sup>京</sup>之<sup>京</sup>大<sup>京</sup>完

若

初<sup>下</sup>之りや<sup>京</sup>雪<sup>京</sup>も<sup>京</sup>は<sup>京</sup>之<sup>京</sup>新<sup>京</sup>之<sup>京</sup>大<sup>京</sup>完

年

初<sup>下</sup>之りや<sup>京</sup>雪<sup>京</sup>も<sup>京</sup>は<sup>京</sup>之<sup>京</sup>新<sup>京</sup>之<sup>京</sup>大<sup>京</sup>完

年

初<sup>下</sup>之りや<sup>京</sup>雪<sup>京</sup>も<sup>京</sup>は<sup>京</sup>之<sup>京</sup>新<sup>京</sup>之<sup>京</sup>大<sup>京</sup>完

門

初<sup>下</sup>之りや<sup>京</sup>雪<sup>京</sup>も<sup>京</sup>は<sup>京</sup>之<sup>京</sup>新<sup>京</sup>之<sup>京</sup>大<sup>京</sup>完

年

初<sup>下</sup>之りや<sup>京</sup>雪<sup>京</sup>も<sup>京</sup>は<sup>京</sup>之<sup>京</sup>新<sup>京</sup>之<sup>京</sup>大<sup>京</sup>完

門

初<sup>下</sup>之りや<sup>京</sup>雪<sup>京</sup>も<sup>京</sup>は<sup>京</sup>之<sup>京</sup>新<sup>京</sup>之<sup>京</sup>大<sup>京</sup>完

門

初<sup>下</sup>之りや<sup>京</sup>雪<sup>京</sup>も<sup>京</sup>は<sup>京</sup>之<sup>京</sup>新<sup>京</sup>之<sup>京</sup>大<sup>京</sup>完

門

初<sup>下</sup>之りや<sup>京</sup>雪<sup>京</sup>も<sup>京</sup>は<sup>京</sup>之<sup>京</sup>新<sup>京</sup>之<sup>京</sup>大<sup>京</sup>完

門

初<sup>下</sup>之りや<sup>京</sup>雪<sup>京</sup>も<sup>京</sup>は<sup>京</sup>之<sup>京</sup>新<sup>京</sup>之<sup>京</sup>大<sup>京</sup>完

門

初<sup>下</sup>之りや<sup>京</sup>雪<sup>京</sup>も<sup>京</sup>は<sup>京</sup>之<sup>京</sup>新<sup>京</sup>之<sup>京</sup>大<sup>京</sup>完



松飾 古国もいよほそじに松飾りカ 昔本  
 菌朶 二日月也カと云物菌朶間 可俊  
 蓬萊 昔葉の皮をいよほそじカ 山店  
 福壽科 からい家やまねたふか福壽科 乙由  
 楓 楓葉科たふか根と云物 琴風  
 書初 由ほりてや種科よほりてカ 似船  
 出初や祝カと云物と云物 二柳  
 初展 何と云物と云物と云物 青羅  
 正月 正月や祝カの餅と云物と云物 万子  
 正月や祝カの餅と云物と云物 由平  
 正月や祝カの餅と云物と云物 角上  
 正月や祝カの餅と云物と云物 二柳

子日 ひろりねもいよほそじ人妙カ 去来  
 小松 正月廿八日 園のと云物と云物 青羅  
 七州 七州や己ほりての大拍子カ 舒紅  
 七草 七草の皮と云物と云物 越人  
 七草や祝カと云物と云物 諷竹  
 芭蕉 一と云物と云物と云物と云物 芭蕉  
 英之 敷の中れ葉ハ人よあそぬカ げん  
 蝶差 かまきと云物と云物と云物と云物 蝶差  
 二柳 雪取と云物と云物と云物と云物 二柳  
 支考 けりて云物と云物と云物と云物 支考

茶

養



辨味のほくやあまの味はあり 桃如  
 一株の牡丹はさくらさくらうか 尾頭  
 船中いよるるはるるるるるる 正秀  
 走つた道ふたふたふたふた 幾雪  
 そのまじりたるあひぬきを川 曉臺  
 村のまやふもく移るやふもく 希因  
 万葉やあまの帆ふし敷の事 梅盛  
 万葉やあまの古たふしふるれ 騏道  
 万葉やあまのいふたふたふた 千代  
 猿皮 猿皮よつてまやさうはし 巴靜  
 左義法 たともやうこれ相成り扱 旭芳  
 こえ法や四方ふらふ井はる 菊乙  
 前掲 万葉やあまのいふたふたふた 友靜  
 後入 やふ入の二人あまてまらるる 宗文

柳 柳の種時ふさふさあけわん 燕村  
 赤水あけけけ通るやあま 重厚  
 梅 梅うふ遊りあけあけあけ 芭蕉  
 本ふけのけけあけあけあけ 桐雨  
 さつあけあけあけあけあけ 野水  
 あけいゆあけあけあけあけ 諷竹  
 寺のあけあけあけあけあけ 孝由  
 庭のあけあけあけあけあけ 嵐竹  
 万葉のあけあけあけあけあけ 史明  
 梅うあけあけあけあけあけ 斜嶺  
 白うあけあけあけあけあけ 勺堂  
 こけあけあけあけあけあけ 史考



梅はさかぬとては、この日の月 園女  
灰柱へ白梅のまはりぬれ 凡れ  
梅はむねの月影のまはりぬれ 惟然  
まはりぬれ人まはりぬれ 千代  
酔ふまはりぬれ 希因  
春風のまはりぬれ 青蘿  
月の梅のまはりぬれ 二柳  
梅のまはりぬれ 風律  
本意まはりぬれ 夢太  
灯のまはりぬれ 宿 蕪村  
梅のまはりぬれ 枝小 千代  
大のまはりぬれ 枝小 凡董  
及原のまはりぬれ 諸九  
清原のまはりぬれ 木采

柳

梅はさかぬとては、この日の月 園女  
灰柱へ白梅のまはりぬれ 凡れ  
梅はむねの月影のまはりぬれ 惟然  
まはりぬれ人まはりぬれ 千代  
酔ふまはりぬれ 希因  
春風のまはりぬれ 青蘿  
月の梅のまはりぬれ 二柳  
梅のまはりぬれ 風律  
本意まはりぬれ 夢太  
灯のまはりぬれ 宿 蕪村  
梅のまはりぬれ 枝小 千代  
大のまはりぬれ 枝小 凡董  
及原のまはりぬれ 諸九  
清原のまはりぬれ 木采



青柳はさくらも静し 千代  
 心づつかけては遠目れ柳は 青蘿  
 くら歌ふ空をくらし柳は乳 木原  
 たもとも何ふくても柳は 希因  
 ま柳はさくらも静し 希因  
 ま柳はさくらも静し 希因  
 下萌 下萌はさくらも静し 希因  
 草芽 草芽の上より下萌はさくらも静し 希因  
 着丹 着丹はさくらも静し 希因  
 春 年のまふ若はつひ柳は春風 乙由  
 日のまふ柳はさくらも静し 紫曉  
 雨つらふ柳はさくらも静し 二柳  
 露臺 露臺はさくらも静し 子祐

芥 芥摘や向ひつらるはるの泣 十丈  
 鶴の音あつたはさくらも静し 諸九  
 涙返 涙返はさくらも静し 文草  
 宵戸中はさくらも静し 内山  
 齒のまふ柳はさくらも静し 大江丸  
 春寒 春寒はさくらも静し 二柳  
 餘寒 餘寒はさくらも静し 文素  
 春霜 春霜はさくらも静し 一嵐  
 南天はさくらも静し 莫二  
 春雪 春雪はさくらも静し 一笑  
 今一依炭火買つたはさくらも静し 支者  
 まれ雪吹ふはさくらも静し 蓼太  
 まれ雪吹ふはさくらも静し 圃更  
 まれ雪吹ふはさくらも静し 可董



雪解

雪をけりて青や板又冷し深 氷固

氷解

氷をけりて餅くは池のひしけ 唐介  
梅樹や日さぬけりて夕のひみ、北枝

霞

霞うきや大井をくくうきま 露沾  
山をやあふくくくくくくく、涓泉

鶺鴒

鶺鴒くくくくくくくくくくく 鶺鴒動  
くくくくくくくくくくくくく、雁夫

雀

雀くくくくくくくくくくくく 玄兔  
くくくくくくくくくくくくく、一鳳

春風

春風の息干ぬるもさきく風 許六  
くくくくくくくくくくくくく、為有

鶺鴒

鶺鴒くくくくくくくくくくく 梁山  
くくくくくくくくくくくくく、馬佛

鶺鴒

鶺鴒くくくくくくくくくくく 芭蕉  
くくくくくくくくくくくくく、蘭更

鶺鴒

鶺鴒くくくくくくくくくくく 千代  
くくくくくくくくくくくくく、曲翠

鶺鴒

鶺鴒くくくくくくくくくくく 曾良  
くくくくくくくくくくくくく、芭蕉

鶺鴒

鶺鴒くくくくくくくくくくく 北枝  
くくくくくくくくくくくくく、曾良

鶺鴒

鶺鴒くくくくくくくくくくく 若芝  
くくくくくくくくくくくくく、風國

鶺鴒

鶺鴒くくくくくくくくくくく 風國



雪やれのよの敷の風うら 野坡  
 鶯とやまきくう寂のうら 芦本  
 雪のこましく雪や井れお 皆可  
 雪のふもをねかからんり 蓼太  
 雪やらん一雪の又うら 智月  
 雪や雪の麻の雪の狼牛 宋露  
 雪の指がえくく相うれ 堤亭  
 雪のこましく雪のやと 猿雄  
 雪の多のふくくぬら 南里  
 雪のふもふも雪の敷が 壺中  
 雪のねまきくうてなます 柳七  
 雪や雪のたもあ丁初 梨一  
 雪のふもふも雪の敷が 斗入  
 雪の雪やうら雪の敷が 山只

白魚

傀儡の布れあうらうら 夏江  
 白魚の價あうらうらみん 芭蕉  
 白魚やるうらうら海なし 枳風  
 白魚やうらうらおれなほ 安眠  
 白魚のうらうら国はねり 又翁  
 白魚の梅のうらうらうら 青蘿

猫

猫のほや魔のうらうら通を 芭蕉  
 猫のうらうらうら猫の意 去来  
 猫のうらうらうら猫の意 露川  
 猫のうらうらうら猫の意 史邦  
 猫のうらうらうら猫の意 二柳  
 猫のうらうらうら猫の意 千代  
 猫のうらうらうら猫の意 素鈞



二月

二月 花はく木をさしに二月廿 考

おぼえ三日 籠より二月廿 大元

たつとこれゆきと春の月 二柳

花はく木をさしに二月廿 青蘿

おぼえ三日 籠より二月廿 大魯

たつとこれゆきと春の月 松兄

おぼえ三日 籠より二月廿 免土

たつとこれゆきと春の月 五井

おぼえ三日 籠より二月廿 二柳

たつとこれゆきと春の月 豊重

おぼえ三日 籠より二月廿 蕪村

たつとこれゆきと春の月 昔人

おぼえ三日 籠より二月廿

たつとこれゆきと春の月

おぼえ三日 籠より二月廿

たつとこれゆきと春の月

おぼえ三日 籠より二月廿

たつとこれゆきと春の月

おぼえ三日 籠より二月廿

たつとこれゆきと春の月

おぼえ三日 籠より二月廿

たつとこれゆきと春の月

おぼえ三日 籠より二月廿

たつとこれゆきと春の月

おぼえ三日 籠より二月廿

たつとこれゆきと春の月

おぼえ三日 籠より二月廿

たつとこれゆきと春の月

おぼえ三日 籠より二月廿

たつとこれゆきと春の月

集

虫の力ついでにういふ 杉風  
板紙はゆふや移るの茶室時 正秀  
ねと人思のまゝに紙もあか 李由

一ふに集ておきうく移る人か 李東

俳

大は陰よふぬ俳のふれ 希因  
ともしとやみれつれめてとふ力 捨石

くられとに燈はほしとふの月 曉臺

先か鳴猫もまらんとふの力 大江丸

ともしとやみれつれめてとふ力 史邦

我のふりうてとふや掛月 芦角

桑の心のふらやねふる月 春猪

涙をうけては出て出もあ掛月 梅貞

ともしとやみれつれめてとふ力 希因

骨のまに竹うらうして掛月 青蘿

賦



三月のまごころぬく柳も 也有

柳花 柳花や塙の標本ゆきの糞 徐寅

春夜 春の夜や人さへいづけのさ夜 知白

春日 春の夜や小松のささけも 杜若

まればや雀の砂活て 鬼貫

まればの牡丹ふきよて 晚翠

新くて産み出さるる月夜 蘭更

春 春の夜やゆら木吐るる音 野水

春の夜や月一にして波の波 素丸

春の日の西よ出てさるれ丸 枚光

暁 暁のうらして暖かき浦田か 知白

暁や鶉の糞ふらふ浦つゝ 古帆

長閑 長閑さふもれし思ふぬ夜や 杜園

陽炎 かげらふや川のぼふの地や 危亭

かげらふや位白血うらるるの上 酒堂

陽を公けしおとりの鳥の 和泉

てらけりや陽をばさるる 史邦

陽をにらあつぬきぬき 梨一

陽をぬきえたるやぬきぬき 蕉下

陽をや登りうかひけの糟 其繼

陽をのりえて田にちる椿 曲翠

我思ひぬれ陽をふらりぬか 白圃

入つる月しと花のうらけ 芭蕉

いづれやふらぬ藤井人のうけ 乙州

いづれやうこやちの古海 乱絲

枯草けおしきりくことこのあ 蝶夢

うらるる水 蘭更

ひりくこときてりやまの水 青蘿

春

春遊



水溫 おのれさへ抱ひありくよ春の水 大江丸  
あぬるひひや手綱もわりりた 阿誰

種後 種つけて濁りしや川井 辨石

種前 種前や馬のふふし 民古

麻酔 麻酔や子小病のうぬら 暁雨

煙寺 煙寺や刀ふへ一とさそ 泉車

山焼 山焼や若麗の雫いあけり 布舟

焼野 焼野や青と吹出す煙野 呼丁

薙草 薙草の起りさ若とこころ 芭蕉

木芽 木芽のついまてさる木芽うぬ 牧童

構木 本れ芽やさる湯治ふれ 淡々  
食ふや木芽れつもの一と不れ 念粘  
世の中かかこころなぬこころ 淳見  
十本小五本うけの構木うぬ 柱守

お梅 お梅やぬえつる玉 芭蕉  
お梅や小梅さのふいふとつら 布舟  
お梅やいそぬえつるさき 也有

椿 雪のまねりしたる様うれ 芭蕉  
春ふあて様よつる様うぬ 桃隣  
よ風よいふ様のさあうぬ 野坡  
さうふても承うきぬぬ様 是水

谷のおいあうり明て白核 二柙  
一しのさあめつる様うぬ 馬印



紫

紫重

紫のつらね

紫重

紫のつらね

青蘿

紫のつらね

涼菟

紫のつらね

夏江

紫のつらね

暹望

紫のつらね

龍石

紫のつらね

佳南

紫のつらね

曉臺

紫のつらね

蓼太

紫のつらね

野坡

紫のつらね

紅石

紫のつらね

蝶麦

紫のつらね

羅人

千代

嵐

嵐雪

小松町の嵐

小松町の嵐

小松町の嵐

小松町の嵐

小松町の嵐

小松町の嵐

小松町の嵐

小松町の嵐

小松町の嵐

小松町の嵐

小松町の嵐

小松町の嵐



たははあまこころへて伸上ノボリ 雲郎

芥志 為中ナカノとつふ笑る芥花カイカ 其角

美志 菜園ナヅメよとねと歌ま存うれ 芭蕉

母ハハとまやふとねのそと心の縁 来山

ふのこれ小舟コフネとふく旭アサの飛 東明

ふのこれや高タカの天アマとつとつ 毛純

ふのこれのこころにふる教ノトメ 曉臺

菜ナのふなむとや眠ノドムるや松マツのふ 窓巳

茶チヤ かつらぬのこれまをり酒サケのれ 青蘿

嘘ウソ 嘘ウソ子のふこれぬヌひと右ミダにカ 雨拍

一ヒトつとふ音ネふとぬヌと入イ嘘ウソのれ 和友

栞シロととふ人ヒトとつとふ嘘ウソにカ 涼菟

られうらる日のしけしぬやぬ嘘ウソ 諸九

孫マコ接ツグる日ヒぬヌとつとふ嘘ウソのれ 乙由

風カゼをてふあやふふ嘘ウソ 大江九

かよくけしうまはなまの嘘ウソ 蕪村

雨アメやにニとつとふ嘘ウソにカ 千代

内ウチれ水のミヅとつとふ嘘ウソにカ 青羅

青アヲ園ノやあふふむふと嘘ウソ 風律

やとつとふ嘘ウソのれにカすカ 一笑

笹アシの家ノのひくヒクとやヤやふ嘘ウソ 流志

てふのノ飛トビとつとふ嘘ウソにカ 芭蕉

てふのノ飛トビとつとふ嘘ウソにカ 園女

雪ユキのノあつとつとふ嘘ウソにカ 土芽

ものモノとつとふ嘘ウソにカ 蘭更

蜂 蜂ハチのノとやヤ一間イツカンにカ見ミ牙カ 蘭二

蜂ハチのノとやヤ可カとつとふ嘘ウソにカ 大江丸

田タ畑ハタ ひくヒクとつとふ嘘ウソにカ 支考



くふめくれろりしとほつ田田愚心

陸こゑり并生の水や田田暁臺

春居 尻声よふと鳴ありまねまね鞍風

一扱つく飛ふまゝまゝ二柵

鳥居 うさそねねくこや扱すの塚居 大草

けここれいんままよ小田田大嘗

破の衣の系極極はけんけんつつ春幾

丁けて門田もきくおもおもハハ蕪村

ぬくくくとろろろひてひおお出出涼菟

日のまらまややままかかううててうう方廣

引都 引つゝあまのちちああつつれてれて夜夜のの月月后覺

引さうさううつつささへへまま田田古帆

引都 雲よまま何とええけてけてととろろもも朱拙

引都 斗入

鳥歸 扱ふふててううつつぬぬもも扱扱ををままりり斗入

雲雀 砂川川和和芝芝よよ流流ててぬぬくくいいろろ許六

ふろろししれれよよ落落よよつつかかええひひるる惟然

ちせせ四月月かか出出ててまま花花ぬぬれれ浪化

ちちちちふふ時時ととかかくくちちわわひひろろ南甫

扱扱の木木ははままいいろろ上上ささいいろろ北童

水水ののままいいろろああららるる北枝

若菜菜のの作作向向初初ささいいろろ乙由

吹風風よよ不不定定ちちぬぬいいろろ風國

細細ままふふ葉葉かかけけららいいろろ羅川

ちちちちままああららるるいいろろ也都都如行

小小ささままいい風風ちちちちろろまま花花柗材

いいろろりりろろろろろろととままてておおるる榮枝

雉 昨昨とと横横よよぬぬちちひひくく新新のの早早とと一保



ねのし子成りし小似る鏡聲 千那  
 とつとあふむのつらや紙の声 京 吾仲  
 大佛やうしろはひく紙の声 蝶夢  
 かつらつとさよ風有きうの声 二榊  
 紙つて紙の本紙依りしとて 蕪守  
 燕 燕のさやのひくい所 水甫  
 ぞふふふと土よすむ燕也 也有  
 万葉ふまねはちちう燕うね 長水  
 大和ゆけまもろくも燕也 蕪村  
 燕ついで行てりしとてのちれ 空應  
 燕いぬれ教るうれまゆか 岱青  
 燕巢 神柳はひういあ燕の巢 古帆  
 呼ぶ鳥 松風の尾小ういあ鳥の音 以琴  
 牡丹花の尾は巢つれぬ鳥 三千風

若船 若船の船の角小たぬぬり 才麿  
 小船 流つたよ命やとひ小あゆれ 鳥有  
 船波 船波のよんつとるれう人 露言  
 愧 ぬれ一のまうれぬぬ舟 大気  
 夕思やまうらうらぬ舟 圃更  
 村のハ松のまうらうぬぬり 昆明  
 あすまのれいふとまぬぬれ 惺和  
 踏 踏や三日の月くくふの海 由平  
 踏のころくし踏る二下浮舟 圃更  
 寄蜃 凡そのかもくぬきううぬ舟 天垂  
 海苔 おとろくや菌は食めての山砂 芭蕉  
 海苔くらの赤死まうらぬ舟 尺牘  
 孕藤 春深し秋のつれとる子しつ 紫暁  
 藤角 何のまゆつて流る藤の角 行流



歌

市中やるふけけ凡中 涼苑  
 夕られのゆくはてふ凡中 才麿  
 切てやるふとぬまやいのり 晴臺  
 凡中よりくふ人安藝里向 大江  
 いのふらたのそののけり所 蕪村

三月

二月

二月 三月や清なるの流まきりて 信徳京

弥生

三月や清なるの流まきりて 信徳京

雑

離志や入浪のさうや二月は月 前口  
 離すらの烈やあると後声 國之  
 離の飯それるう松よ旭か 吾仲  
 離の間まらふれてくふ凡佛か 曉臺  
 松柳さうなる離の額によ 蝶夢

出代

花

すけらる望不のうりし紙能 雲芝  
 親よらひひつめと中人夜非 其角  
 松風とふさふさなるぼりてか 轍士  
 小浜若くと入浪子の江れま水 二柳  
 出代中人ほやの二日月 也有  
 出代や牛合息して小京近 其角  
 出代の井戸よハ流き契うね 大江元  
 ふく病よつれさきおのおか 子那  
 ゆくさ雨のふかいしほさとれ水 寄節京  
 けいけいさやもれあさるの羽立捨 芭蕉  
 佐もくれも花やらん十五六 介我  
 早志よ女まことのくりしる堂 言水京  
 花の雨網が垣をくろくふ 仙化下  
 その踏てはなささくはくま 立志



花さうりつゆもそらぬ法沙ヒナ 三止

生い又遊まきて浪人志の下 千那

花城才の日教は汚す衣の夜 去来

花香よんあやう布小ぬひ 千梅

ぬいこもるまもつれす産の死 文州

種つく瓜漬もてふるまけ山 北枝

花も小并八拍の石葉くね 路通

花よくすあていほしる産抄 漁川

あつりやま産のまの産附か 千梅

甲虫や花のさうりよ門の産 風睡

けむ花ちる産産申やくり 正秀

花よあつあつ田畑の火つりり 如體

花よ氣つとらけて戻る夕抄 杉風

うりつとまもる産す花尺抄 朱拙

傘さして折あひもせひあつ 桃隣

花一葉のこころは産ふあつり 芭葉

あつりあつりのこころつたころ 去来

あつりあつりあつりあつり 空芽

産物の瓜志ひるも花の産抄 李由

産物くやよ入たぬ本照れも 智月

つたよ風のりく本てふ酒の池 嵐雪

つたよ産のぬのたえちあつり 卯七

不しつと産ふ産田心産抄 虎通

いん産もつと産ふ産 一音

産物やま産産産産産 其角

つたよ産のぬのたえちあつり 松元

産物酒の産物の産物産抄 大江丸

あつりあつりの産物産物産物 史邨

花



楸

振子〜楸子〜村子〜山子 山店  
向子〜村子〜村子〜山子 其角  
庭子〜楸子〜楸子〜楸子 尾頭  
た子〜楸子〜楸子〜楸子 干那  
後子〜人子〜山子〜山子 柳五  
口子〜山子〜山子〜山子 許六  
つ子〜山子〜山子〜山子 一洞  
大子〜山子〜山子〜山子 本導  
夏子〜山子〜山子〜山子 李由  
心子〜山子〜山子〜山子 米密  
大子〜山子〜山子〜山子 汶村  
か子〜山子〜山子〜山子 曉臺  
百子〜山子〜山子〜山子 許六  
中子〜山子〜山子〜山子 竹阿

楸

又子〜山子〜山子〜山子 関雲  
世子〜山子〜山子〜山子 夢太  
者子〜山子〜山子〜山子 松瓦  
又子〜山子〜山子〜山子 干那  
源子〜山子〜山子〜山子 輿道  
一子〜山子〜山子〜山子 木菜  
楸子〜山子〜山子〜山子 枯竹  
一子〜山子〜山子〜山子 也有  
旅子〜山子〜山子〜山子 羅城  
〜山子〜山子〜山子 湖雀  
〜山子〜山子〜山子 希園  
〜山子〜山子〜山子 曲翠  
〜山子〜山子〜山子 获人  
〜山子〜山子〜山子 青羅



月ふらりし花も新梅の花 曉臺

やの雨いあれし菊も 千代

和来花 那のいれ里や昔れ山時 霜 波村

ふり雪ふりぬき 除風

てみ耳をかききき 梨の心 支考

打んふ秋の歌ふ 梨の心 也有

吾花 雪つれて山けつらん 香つれ 稻丸

海棠 海棠いりうおきたりて眠り 普葉

海棠や 寝つゝ 玉より 摸枕 曉臺

本蓮花 雨つくとりてぬき 本蓮花 言露

躑躅 ぶらりし花も 文鳥

けしきも 文州

新居を 沽冊

新居を 沽冊

新居を 沽冊

門の侍も 打女 二柳

藤 山あやも 千那

流のあやも 曉臺

常のあやも 千代

まきのあやも 蓼太

まきのあやも 麦由

連翹 連翹や 二柳

山吹 山吹や 望翠

山吹 山吹や 蘭更

山吹 山吹や 惟中

山吹 山吹や 句空

山吹 山吹や 花洲

山吹 山吹や 朋水

山吹 山吹や 支幽

山吹 山吹や 支幽



これらの向ふに草花 園女  
 ままもろのちつくや草花 諸九  
 うつらにたれまき草花 蘭更  
 おくらや人住みれて草花 曉臺  
 董更うつむ草花のほゆが 二柳  
 ほつらにまきし草花の草花 松元  
 物まのこころのまき草花の草花 芦文  
 茶摘 日の園や草花のまき草花 正秀  
 おくらにまき草花の草花 何狂  
 船の下まき草花の草花 寒白  
 青麦 青麦の草花のまき草花 敏實  
 苗代 苗代や草花のまき草花 許六  
 苗代や草花のまき草花のまき草花 柳居  
 蛇 蛇のまき草花のまき草花 古帆

乃くまは蛇... 是も草花 一鳳  
 節元と蛇のまき草花 有庸  
 も草花 草花のまき草花のまき草花 古帆  
 教草花 草花のまき草花のまき草花 蘭更  
 草花 草花のまき草花のまき草花 愚心  
 炸塞 炸塞や草花のまき草花 沙明  
 草花 草花のまき草花のまき草花 楓鹿  
 春の草花 草花のまき草花のまき草花 沾律  
 居風草花のまき草花のまき草花 嵐竹  
 草花のまき草花のまき草花 如行  
 行春 草花のまき草花のまき草花 惟然  
 草花のまき草花のまき草花 嵐青  
 草花のまき草花のまき草花 諸九  
 草花のまき草花のまき草花 青蘆



浅見  
大魯  
野水  
曉臺

夏

四月

白重 嵐雪

更衣 利牛

衣之山 乙由

衣之山 雪芝

衣之山 幸木

衣之山 鬼貫

衣之山 支考

衣之山 嵐雪

衣之山 露沾

衣之山 嵐蘭

衣之山 蘭更

衣之山 燕村



拾

ゆくふくそくしてまゝの後、乙由  
二日三日のそく、拾、千代

孫枝

孫枝、木田

孫枝、青

孫枝、捕

青

青、鬼七

青、馬肝

四月

四月、竹平

四月、曉臺

四月、斗入

行月

行月、圃更

太夫殿

葵系

葵系、圃更

縁供

縁供、蕪村

権佛

権佛、其角

権佛、毛純

佛生會

佛生會、乙由

花柳堂

花柳堂、二柳

一夏

一夏、曉臺

夏

夏、白雄

夏

夏、二柳

夏

夏、知義

夏

夏、蕪村

夏

夏、曉臺

夏

夏、二柳

夏

夏、二柳



いこころ人の愛らふ不<sup>レ</sup>忘<sup>ル</sup> 貞徳

系よめて糸ぬり<sup>レ</sup>やふら<sup>レ</sup>す 芭蕉

あき清く<sup>レ</sup>い<sup>レ</sup>や<sup>レ</sup>歌<sup>レ</sup>一<sup>レ</sup>り 鬼貫

こころぬやう<sup>レ</sup>よ<sup>レ</sup>人<sup>レ</sup>い<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>歌 牧童

あき二つの橋の渡の糸 惟然

不<sup>レ</sup>い<sup>レ</sup>ふ<sup>レ</sup>守<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>平<sup>レ</sup>尾<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>め<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup> 萬手

本城<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>こ<sup>レ</sup>本<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>時<sup>レ</sup> 壽仙

そ<sup>レ</sup>所<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>井<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>歌<sup>レ</sup>一<sup>レ</sup>り 千那

夕<sup>レ</sup>夕<sup>レ</sup>け<sup>レ</sup>や<sup>レ</sup>な<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>花<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>け<sup>レ</sup>り 山店

あ<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>目<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>し<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>れ<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>時<sup>レ</sup> 千色

あ<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>時<sup>レ</sup> 酒堂

あ<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>時<sup>レ</sup> 北枝

杜<sup>レ</sup>や<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>い<sup>レ</sup>さ<sup>レ</sup>か<sup>レ</sup>ひ<sup>レ</sup>く<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup> 野坡

あ<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>時<sup>レ</sup> 千梅

川<sup>レ</sup>越<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>途<sup>レ</sup>中<sup>レ</sup>よ<sup>レ</sup>そ<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>や<sup>レ</sup>時<sup>レ</sup> 丈艸

糸<sup>レ</sup>糸<sup>レ</sup>古<sup>レ</sup>糸<sup>レ</sup>空<sup>レ</sup>活<sup>レ</sup>い<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>か<sup>レ</sup> 諷竹

あ<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>時<sup>レ</sup> 希園

あ<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>時<sup>レ</sup> 嵐雪

あ<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>時<sup>レ</sup> 浪化

あ<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>時<sup>レ</sup> 言水

あ<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>時<sup>レ</sup> 杉風

あ<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>時<sup>レ</sup> 丈艸

あ<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>時<sup>レ</sup> 岱水

あ<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>時<sup>レ</sup> 瓢水

あ<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>時<sup>レ</sup> 櫻良

あ<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>時<sup>レ</sup> 一音

あ<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>つ<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>時<sup>レ</sup> 十代



布敷

かしらももるおまきや中時ち 蓼太  
 うらうら向ふむくまわかんこも 後雖  
 見えらるゝ水もと本もぬらんこも 隈子  
 かんこもにすの松の枝よき事 二柳  
 日いふらぬ日さふらぬあかき事 青蘿  
 およの本のさる花もあかんこも 儿董  
 山ゆい布の市ふさるさるあかき事 圃更  
 我よ事いこもあかんこもかんこも 蓼太  
 かんこもあかき枝いふんとあかき 蕪村  
 行ま さらたや遠くけりいこも 為重  
 中いふらぬあかんこもあかんこも 諷竹  
 いふらぬあかんこもあかんこも 千代  
 朝いふらぬあかんこもあかんこも 希周  
 花 さらんこもあかんこもあかんこも 支考

振也の日ぬふたうぬ牡丹お 野明  
 菡菡又首斜理やぬ牡丹 鞭石  
 ちういせせあかんこもあかんこも 葉文

先白牡丹よ花のぬぬぬぬぬ 海棠  
 青天よひうつこぬぬ牡丹ぬぬ 汶村  
 右通よあかんこもあかんこも 嵐雪

嘆てうらう中あかんこも牡丹ぬぬ 釣壺  
 わらあかんこもあかんこも牡丹ぬぬ 風國  
 了あかんこもあかんこもあかんこも 蕪村

花のうらうあかんこもあかんこも 青蘿  
 指あかんこもあかんこもあかんこも 千代  
 いらあかんこもあかんこもあかんこも 大凡  
 牡丹ちうあかんこもあかんこも 権妖  
 芍薬のちうあかんこもあかんこも 大凡

芍薬



墨栗

廿

いふくらの身まをれりけれは 支考

われらふは哀にちるけれは 本導

白けりの身まはれりけれは 青蘆

けりてちるふいふはれりけれは 二柳

海をふらふせりけりけれは 臥床

思ふ

思ふの身まはれりけれは 沾徳

影の身まはれりけれは 去来

杜あやこくあれりけれは 曉臺

いふくらの身まはれりけれは 扇更

羨死

羨死の身まはれりけれは 風睡

そとくらの身まはれりけれは 蕪村

花とくらの身まはれりけれは 千代

麦

流るるあふの身まはれりけれは 遊力

雨よおて粒まふ甘きけれは 夫艸

麦の粒よくちや花のまぬれ 野坡

麦秋

麦秋の身まはれりけれは 風喬

麦刈より風のころ心まこけ 瓢水

麦秋はたけりけれは 也有

夏末五

ゆきころの心まはれりけれは 紅雪

後の茶いあつきの心まはれりけれは 鬼貫

いふくらの身まはれりけれは 嵐竹

とけ入りの心まはれりけれは 蘭更

本下書

牛の月の光さ心路本下書 白石

羨

心止る小書いける心まはれりけれは 土芳

羨

いふくらの身まはれりけれは 呂丸

荒してるあつきの心まはれりけれは 儿董

あつきの心まはれりけれは 曉臺



山まきして小舟漕りしと邦 蕪村

あまのつとねとみづにそよぐ 几董

晩鐘よきもちのうらみか 千代

卯花 卯の花は後れまよもきねひら 秋の坊

ふゆひて卯花まの波うきふ 支考

卯のまふよきもまろく鳥 希因

卯よみかゝの能きまの白井 几董

卯よみ日と花うらみまろく 千代

卯よみのこゝろくさの藤と和 蕪村

卯花の草浪よららひ田部 青蘿

横實 せん橋やまてい鳥のひひり 一路

系橋 紫橋や信のむらと木恋のふ 里石

紫橋よひふちこもる你心が 方廣

りけうしよ系橋くやう相 嵐竹

さしあつ旭のいろやち楓 来山

相の志 尾ぞちちいこりれいも相の志 乙由

相の本やまろくも思ふよ 才麿

雷の光くそらりり相の志 史邦

しりしせひらりりもい相の志 也有

名歌志 けふの夜や誰かこひ小田の直 二柳

多きうてせうらじろあまの志 風律

数枝 けさり雨のふ鳥やふつと花 遊林

玉巻葛 玉巻 こそ来し人風よたやへきま 麦浪

蚊 小舟ひいてうらみ高れつと花 麦水

蚊 舟船してまをたをたふと花 二柳

蚊のまをたをたふと花 團更

うらみ風よ蚊の光れい飛りか 蕪村

蚊帳 ひらねの蚊帳も田隅つらう 来山



雨のまじりししやの内 正木

雨並て故帳冷しる夕の 好春

世のいづれかのけしき故帳の中 謙山

青ねしとけしき故帳のつらね 其角

寝ひとけしき故帳のぬるぬる 直生

不ちくとその音も故帳が 李東

夕のむせしては花く故帳が 希因

夕の暮つぬ宿のこゆるれ 儿董

夕のれの一つふさぐるやうに 竹阿

故帳や春の花けあけり 曉臺

雨雫まじり柱のこゆる 芭蕉

暮 ひとしとあけられたる 都雀

あふたやうこわうひたさ 曲翠

新茶いもぬるぬるの新茶 支考

山にさきまに新茶の風 雪濤

凡そ名のついでふくしう新茶が 園女

初茶のいろぬるし初茶が 吾仲

花よの茶もぬるし初茶が 昨震

初茶のいろぬるし初茶が 知誰

鯉 清いぬるの花や 宗瑞

ぬるぬるぬる人のよ 青雅

ぬるぬるぬるぬる人のよ 芭蕉

ぬるぬるぬるぬるぬる人のよ 岩翁

花のよぬるぬるぬるぬる人のよ 大江丸

卯むよぬるぬるぬるぬる人のよ 二柳

五月

青 麦つれぬるぬるぬるぬるぬる人のよ 渭川



かゝる方か風の責る五月廿京 凡兆

五日すくあ陀あるにやう井 桃隣

雪刀の五條と通る雪の白が 乙由

あやめ竹葉沙の膝みせら木枝

山風の系なつてあつてのほつが 希因

芋田鶴のまぬまぬ言水

うつくしう結せておくれ萬二

鶴写家あつてやうし清流

葛浦雪 いさうくあやらの後や田のり桃隣

我やい草よまひくあやうね季吟

葛浦雪 ちやち愛名をかたはさ乙由

葛浦雪 ちやちおくおんよそのついで荷う

我やちと伝ちうう諸九

持こけてちやち團更

競馬

長きよよみ又まうく入る 几董

くくくくくくくくくくくく 蓼太

竹解日 牛裡てえははかた曉堂

葛浦 比み人々小舟とかくあやう梅貞

ふらふらふらふらふらふら千代

洋 屋や隙のかれおとえとも

洋 屋やくくくくくくくくくく

屋 屋やこれいこの月一希因

屋 屋やかけて屋はむのく加生

屋 屋や屋は屋のふくく旭老

屋 屋や屋は屋のふくく几董

川骨 川骨や竹葉とあつて芦角

川骨 川骨やあつて清るあけ隨友

川骨 川骨やあつて清るあけ素堂



草葉 引不しふ江れをしと取草部 尚白

若草 隈草部 只草部 若草部 乙由

若花 若花部 松と若くし木部 馬印

若木 若木部 若木部 山店

若葉 若葉部 若葉部 千代

若草 若草部 若草部 文雅

若葉 若葉部 若葉部 大江丸

若葉 若葉部 若葉部 此原

若葉 若葉部 若葉部 芭蕉

若葉 若葉部 若葉部 嵐雪

若葉 若葉部 若葉部 東志

若葉 若葉部 若葉部 希因

若葉 若葉部 若葉部 旭芳

若葉 若葉部 若葉部 旭芳

夏 夏部 夏部 千那

夏 夏部 夏部 支考

夏 夏部 夏部 素繪

夏 夏部 夏部 斜嶺

夏 夏部 夏部 朱迪

夏 夏部 夏部 史邦

夏 夏部 夏部 配力

夏 夏部 夏部 鬼貫

夏 夏部 夏部 此筋

夏 夏部 夏部 杜宇

夏 夏部 夏部 蕪村

夏 夏部 夏部 蝶夢

夏 夏部 夏部 大魯

夏 夏部 夏部 重頼



なましく小萩あしつる多神部 可董

接しのうへに樹るる多神部 布舟

筆が折る音ひく小島うね 康茂

筆を追ひぬれる接うね 探芝

筆のゆめ境の心きし 支考

筆やこころのうらなえとち 千代

若井の去のうらや四十雀 風國

根がゆるあつう音いと井 権良

若井小おふこそこのおれが 大江丸

青梅とこころの鶴のふりひか 杜旭

枇杷 人のやらの枇杷うふ山鳥 楚帝

権花 どのうらな梅よこのうらな 芭蕉

接し どのうらな梅よこのうらな 乙由

接し きのこ我古果うらなとまのうらな 支考

多橋 揚よきとつるやとつるゆ 乙由

ならとねやふらねのさうら 春桐

抽か 一枝いしらひとつる心押ね 蓼冬

松橋 まごころのゆのうらなを松橋 重厚

栗木 雪よ門つれりうらうのこれ 梅貫

院花よあ音とつるこれ 乙由

折木

菟足

田植 植つりねとつる月の門うね 青蘿

木の枝の波を押しとつる田植部 古道

とつるのうらとつる田植部 支考

田の軒の田植やうらうの半 梅子

湖のあつむけて回つるね 児童

あひく小教つる合て田植部 乙由



田植 次の田いりはいりといり田いり 世女

田植 一いりたし有いりすいり 千代

早乙女 子いり乙女いりやいりおいりのいり日いりも 釣壺

早乙女 早乙女いりやいり梅いり子のいりまいりぬいりしいり 希因

早苗 己いりついり子のいりいいりかいりいいりのいりおいりきいりが 三止

早苗 早いり苗いり者いり時いりかいりのいりないりらいりり 泥足

田植 田いりのいりいいりぬいりまいりぬいりぬいりらいりりいり田いりまいり 蓼太

青田 一いりらいりといりいいりぬいりきいりのいりこいりらいり田いりが 些業

青田 田いり五いり日いりの様いりかいりらいりらいりといり田いりぬいり 千山

五月雨 田いりのいり澄いりきいり田いりのいり一いりツいり家いり 窓巴

五月雨 五月いり雨いり一いり度いりといりといりいいりていりりいり 無倫

五月雨 五月いり雨いりやいりらいりもいりついりていり通いりすいり 露川

五月雨 五月いり雨いりのいり塩いり屋いりはいり田いりにいり焼いり火いりが 支考

五月雨 五月いり雨いりのいりいいりちいりりいりのいり温いり故

五月雨 五月いり雨いりはいり小いり柄いりういりといりりいり山いり路いりが 園女

五月雨 五月いり雨いりはいりしいりえいり松いり流いりすいり塩いり屋いりが 如山

五月雨 田いり中いりのいり心いりやいり又いり月いりのいり心いりといりら 文草

五月雨 五月いり雨いりのいり心いりやいり又いり月いりのいり心いりといりら 卓袋

五月雨 五月いり雨いりのいり心いりやいり又いり月いりのいり心いりといりら 蕪村

五月雨 五月いり雨いりやいりらいりもいりいいりちいり鷲いりといり鷲いりのいり日いりと 希因

五月雨 五月いり雨いりのいり心いりやいり又いり月いりのいり心いりといりら 一ツ松

五月雨 五月いり雨いりやいり田いり中いりかいりういりといりくいり人いりひいりら 蓼太

五月雨 五月いり雨いりのいり心いりやいり又いり月いりのいり心いりといりら 五明

五月雨 五月いり雨いりのいり心いりやいり又いり月いりのいり心いりといりら 市巷

五月雨 五月いり雨いりのいり心いりやいり又いり月いりのいり心いりといりら 芭蕉

五月晴 五月いり晴いりかいりついりていりはいり月いりはいりまいりらいりういり五月いり晴いり 窓巴

五月雨 五月いり雨いりのいり心いりやいり又いり月いりのいり心いりといりら 野明

五月雨 五月いり雨いりのいり心いりやいり又いり月いりのいり心いりといりら 浪化



梅雨

白雲やまきもけしぬ梅雨の中テハ 不王

今梅雨と云ふは拙の意本ナ 都友

水鶏

ぬる風呂と云ふはさういふ事 弘氏

さひふつあやぬぬさき 北枝

ひよりしと人狂カ 伯之

日くしふあかさいてやぶカ 蘭更

かゆらふまよふらうカ 青蘿

老翁

翁やは月うけて杖の中 涪川

言舎

言の言か入てたぐさいも 鬼貫

羽後

たつたのぬいぬに池の鴨本カ 一胤

浮葉

はるかかやて魚のカ 浮葉 蘭更

浪の谷有たふよぬの浮葉本 嘯山

あなよとけ浮葉の聲 窓巴

鶺鴒

つれ鶺鴒たれ羽カ 行山

いせねや鶺鴒のすむ杖の風ねき 馬佛

里川や鶺鴒とれらて杖まよ 来山

つたのたよとれらて杖鶺鴒 去来

鶺鴒

みよまこむ鶺鴒の鶺鴒の無 史明

時えいささやうし鶺鴒のかり 曉臺

鶺鴒

草れ葉鶺鴒のさうさう鶺鴒 芭蕉

のろふり下るいさささ鶺鴒本 蘭子

植本屋の屋敷ぬけり鶺鴒 野徑

田のつりれとつひり鶺鴒カ 萬宇

さへ波の鶺鴒うけておるカ 昔本

しあつちのひみひく鶺鴒本 青峨

鶺鴒一解のつらさう鶺鴒カ 大草

月来カ 正秀

ぬされていさささ鶺鴒カ 也有



花人てり筋カねと堂これ 哀堂

退小人よりりぬきもるきか 大江丸

月のあつ地ふらうつるきか 青羅

提灯よりうつこくしれ堂か 大江丸

ここの地ふらねんと採るるも端半 支考

端半竹より一角のきとーり 蕪村

三月の梅よとーらうり 儿董

たのしみもいふ角にけりく端半 曉臺

ここの地ふらねんと採るるも端半 重厚

子くふらうらぬきり寺系 大江丸

枕の本まうたれぬも毛虫か 蓼太

破るや毛虫のさるる影の上 西吟

雲の森か門の世や又ひり 百明

提灯よりうつこくしれ堂か 河瓢

蝸牛

子

毛虫

望

塊

暁セツ臺

蕪村

牧童

方廣

野風

其角

團更

曉臺

嵐雪

太抵

十州

巷縣

桃隣

紫暁

暁臺

蕪村

牧童

方廣

野風

其角

團更

曉臺

嵐雪

太抵

十州

巷縣

桃隣

紫暁

暁セツ臺

蕪村

牧童

方廣

野風

其角

團更

曉臺

嵐雪

太抵

十州

巷縣

桃隣

紫暁



ふねのついでにあらはるる羅城  
草の生ふるふらふら夏の藤 五明

六月

六月 六月や梅の香をたぐらふし山 芭蕉

六月や風のうらうらてぬらへ 鬼貫

六月の雨のうらや舟一尾 虚谷

六月や夕暮のうら二井のうら 蓼太

水月 六月や朝のあけも塩縁 芭蕉

六月や夕のあけも舟のうら 奚魚

氷室 六月のうらかんせうの氷室も 言水

六月のうらかんせうの氷室も 二柳

ひらうらうら返るるうらぬへし 大江丸

氷水 六月のうらかんせうの氷室も 二柳

一夜酒 夏のうらかんせうの一夜酒 盤水

富士福 六月のうらかんせうの富士福 沾湖

田のうらに遊ばしめてうら土消 奚魚

後筆考 六月のうらかんせうのうら風意 蕪村

月津や人多く遊ぶ心つら 曉臺

柳後 六月のうらかんせうの柳後 立圃

つらうらうら遊ばしてうら柳後 蕪村

茅菰 六月のうらかんせうのうら茅菰 言水

後り花傍のうら柳後 蕪村

風意 六月のうらかんせうの井の裏 蘭更

何れもうらかんせうのうら風意 窓芭

六月 六月のうらかんせうのうら風意 芭蕉

言水 六月のうらかんせうのうら風意 史邦

青嵐 六月のうらかんせうのうら風意 重厚

村のうらかんせうのうら風意



南子

後とてつれとあさん土用丁 去来

湖の風とみどり玉用し 羅城

出丁

セリヤとらいつるらん相柳 大江丸

暑

班猫の足とよ形あつと計ハ 昌茹

聖

石系しふとあつれぬまか 枚風

葉

猿皮のさつりうする暑カ 時中

森

まじらとつとまじら暑カ 氷谷

山

白砂の雀只ひくあつと計 遅望

野

暑とほも根の本つらむ計 素堂

村

村雨の本城はとつと計 其角

水

水とつらむとつらむ暑カ 二柳

涼

涼しと手振しとつらむ計 支考

風

涼風とつらむ同のつらむ計 許六

涼

涼しと手風の暑カとつらむ計 流々

涼しと手風の暑カとつらむ計 蓼太

月涼しとつらむ計 也有

涼しとつらむ計 千代

川風とつらむ計 芭蕉

ぬけとつらむ計 大叶

顔あつとつらむ計 蘭子

可動とつらむ計 去来

まじらとつらむ計 宗次

まじらとつらむ計 一珍

まじらとつらむ計 園女

難かむとつらむ計 其角

まじらとつらむ計 李下

夕つかの甲しとつらむ計 鼠彈

夕涼とつらむ計 乙由

然涼

川風とつらむ計 芭蕉

ぬけとつらむ計 大叶

顔あつとつらむ計 蘭子

可動とつらむ計 去来

まじらとつらむ計 宗次

まじらとつらむ計 園女

難かむとつらむ計 其角

まじらとつらむ計 李下

夕つかの甲しとつらむ計 鼠彈

夕涼とつらむ計 乙由



とくしと名敷をあてしはまき 園女

第ふよはうけり出まて涼哉 山店

白雨 ぐまのこはけ枝まつしのうへ 昌房

ぐまのこはけ枝まつしのうへ 蛙足

白雨の鈴や三谷のひの本下弦 蘭舟

夕立や松のふつく松のやよ 鞍風

白鳥よとくしつむのやねり風 利牛

夕立やひりしとやむも吐息 李由

夕立や麻の匂の匂うとする 徐富

夕立と道り浦の鳥う那 馬印

清水 呵らぐふまてり法ありね 白仙

ひらりつ木の根と下流氷引 雲風

木の中ふといれは車は流あり 宗比

心陰の教やいつら入者法あり 蓼太

ふらりいといしきくはあり外 千代

落あふて音ねくありしは流引 蕪村

山寺や松の下れる世は後あり 几董

物答れ廣葉ようくは流引 方廣

泉 ひとくたうつよ園にひくは外 芭蕉

赤水 赤らけ麻を涼し極の上 也有

千尋 風やま向ふくつるや流引 許六

そは峰ねんは流引しし 鬼貫

さうらうら風の外書を流引 八橋

枯のたすねのすうや流引 路徑

大佛ととらういひこや流引 范亭

麻の葉のらういし流引 史邦

言はれや寂のいし流引 去来

そは流引し流引し小舟引 馬印



夏月

葉のそよ草もほろろ夏月

諸九

芒種てきつふせや夏月

作あ

あふささむのついで夏月

圃更

夏の月をよめし夏月

大江丸

扇

言ふやふ地扇の風うきり

良品

熱も扇うきり夏月

杉風

おろりしのあふささむ夏月

几董

法政うらめしむ夏月

大江丸

團扇

うらめしむの音やねの門

太祇

日の影と押さへり夏月

圃更

さ秋とあふささむ夏月

涼菴

推子

折ふ草もささむ夏月

杜若

行

行まらぬ夏月

諸九

行棧

常任の葉ゆき夏月

嵐雪

香の氣が一むり夏月

抱翁

抱翁や夏月

也有

竹燧

うらめしむの名も夏月

希因

簾

おほく夏月

蕪村

草

あふささむ夏月

水粉

水の粉けき夏月

心太

心太の夏月

其角

風扇

風扇の夏月

蓮

ひく夏月

枝好く夏月

蓮二本とれ夏月

白函

白函

大魯



花はこれつ不<sup>し</sup>月<sup>の</sup>ま<sup>る</sup>に<sup>も</sup> 蘭更

蒲種 藤<sup>は</sup>不<sup>や</sup>子<sup>代</sup>の<sup>ぬ</sup>いて<sup>お</sup>る<sup>る</sup> 可<sup>圓</sup>

夕<sup>光</sup> 夕<sup>光</sup>不<sup>れ</sup>終<sup>り</sup>の<sup>白</sup>き<sup>岸</sup>の<sup>光</sup> 凡<sup>兆</sup>

夕<sup>光</sup>の<sup>と</sup>ぬ<sup>る</sup>ふ<sup>れ</sup>ぬ<sup>る</sup>ふ<sup>れ</sup>ぬ<sup>る</sup> 乙<sup>由</sup>

芭蕉 芭蕉<sup>の</sup>不<sup>れ</sup>終<sup>り</sup>の<sup>白</sup>き<sup>岸</sup>の<sup>光</sup> 芭蕉

向<sup>中</sup> 芭蕉<sup>の</sup>不<sup>れ</sup>終<sup>り</sup>の<sup>白</sup>き<sup>岸</sup>の<sup>光</sup> 向<sup>中</sup>

二<sup>柳</sup> 芭蕉<sup>の</sup>不<sup>れ</sup>終<sup>り</sup>の<sup>白</sup>き<sup>岸</sup>の<sup>光</sup> 二<sup>柳</sup>

大<sup>江</sup> 芭蕉<sup>の</sup>不<sup>れ</sup>終<sup>り</sup>の<sup>白</sup>き<sup>岸</sup>の<sup>光</sup> 大<sup>江</sup>

馬<sup>印</sup> 芭蕉<sup>の</sup>不<sup>れ</sup>終<sup>り</sup>の<sup>白</sup>き<sup>岸</sup>の<sup>光</sup> 馬<sup>印</sup>

嵐<sup>竹</sup> 芭蕉<sup>の</sup>不<sup>れ</sup>終<sup>り</sup>の<sup>白</sup>き<sup>岸</sup>の<sup>光</sup> 嵐<sup>竹</sup>

惟<sup>然</sup> 芭蕉<sup>の</sup>不<sup>れ</sup>終<sup>り</sup>の<sup>白</sup>き<sup>岸</sup>の<sup>光</sup> 惟<sup>然</sup>

騏<sup>道</sup> 芭蕉<sup>の</sup>不<sup>れ</sup>終<sup>り</sup>の<sup>白</sup>き<sup>岸</sup>の<sup>光</sup> 騏<sup>道</sup>

等<sup>般</sup> 芭蕉<sup>の</sup>不<sup>れ</sup>終<sup>り</sup>の<sup>白</sup>き<sup>岸</sup>の<sup>光</sup> 等<sup>般</sup>

紫<sup>曉</sup> 芭蕉<sup>の</sup>不<sup>れ</sup>終<sup>り</sup>の<sup>白</sup>き<sup>岸</sup>の<sup>光</sup> 紫<sup>曉</sup>

石<sup>竹</sup> 芭蕉<sup>の</sup>不<sup>れ</sup>終<sup>り</sup>の<sup>白</sup>き<sup>岸</sup>の<sup>光</sup> 石<sup>竹</sup>

綿<sup>衣</sup> 丹<sup>波</sup>の<sup>綿</sup>衣<sup>の</sup>不<sup>れ</sup>終<sup>り</sup>の<sup>白</sup>き<sup>岸</sup>の<sup>光</sup> 蘭<sup>更</sup>

麻 丹<sup>波</sup>の<sup>綿</sup>衣<sup>の</sup>不<sup>れ</sup>終<sup>り</sup>の<sup>白</sup>き<sup>岸</sup>の<sup>光</sup> 風<sup>皆</sup>

浪<sup>化</sup> 丹<sup>波</sup>の<sup>綿</sup>衣<sup>の</sup>不<sup>れ</sup>終<sup>り</sup>の<sup>白</sup>き<sup>岸</sup>の<sup>光</sup> 浪<sup>化</sup>

谷<sup>水</sup> 丹<sup>波</sup>の<sup>綿</sup>衣<sup>の</sup>不<sup>れ</sup>終<sup>り</sup>の<sup>白</sup>き<sup>岸</sup>の<sup>光</sup> 谷<sup>水</sup>

芭蕉 丹<sup>波</sup>の<sup>綿</sup>衣<sup>の</sup>不<sup>れ</sup>終<sup>り</sup>の<sup>白</sup>き<sup>岸</sup>の<sup>光</sup> 芭蕉

暁<sup>臺</sup> 丹<sup>波</sup>の<sup>綿</sup>衣<sup>の</sup>不<sup>れ</sup>終<sup>り</sup>の<sup>白</sup>き<sup>岸</sup>の<sup>光</sup> 暁<sup>臺</sup>

蕪<sup>村</sup> 丹<sup>波</sup>の<sup>綿</sup>衣<sup>の</sup>不<sup>れ</sup>終<sup>り</sup>の<sup>白</sup>き<sup>岸</sup>の<sup>光</sup> 蕪<sup>村</sup>

涼<sup>菟</sup> 丹<sup>波</sup>の<sup>綿</sup>衣<sup>の</sup>不<sup>れ</sup>終<sup>り</sup>の<sup>白</sup>き<sup>岸</sup>の<sup>光</sup> 涼<sup>菟</sup>

芭蕉 丹<sup>波</sup>の<sup>綿</sup>衣<sup>の</sup>不<sup>れ</sup>終<sup>り</sup>の<sup>白</sup>き<sup>岸</sup>の<sup>光</sup> 芭蕉

希<sup>因</sup> 丹<sup>波</sup>の<sup>綿</sup>衣<sup>の</sup>不<sup>れ</sup>終<sup>り</sup>の<sup>白</sup>き<sup>岸</sup>の<sup>光</sup> 希<sup>因</sup>

尚<sup>白</sup> 丹<sup>波</sup>の<sup>綿</sup>衣<sup>の</sup>不<sup>れ</sup>終<sup>り</sup>の<sup>白</sup>き<sup>岸</sup>の<sup>光</sup> 尚<sup>白</sup>

方<sup>居</sup> 丹<sup>波</sup>の<sup>綿</sup>衣<sup>の</sup>不<sup>れ</sup>終<sup>り</sup>の<sup>白</sup>き<sup>岸</sup>の<sup>光</sup> 方<sup>居</sup>

其<sup>角</sup> 丹<sup>波</sup>の<sup>綿</sup>衣<sup>の</sup>不<sup>れ</sup>終<sup>り</sup>の<sup>白</sup>き<sup>岸</sup>の<sup>光</sup> 其<sup>角</sup>

鬼<sup>貫</sup> 丹<sup>波</sup>の<sup>綿</sup>衣<sup>の</sup>不<sup>れ</sup>終<sup>り</sup>の<sup>白</sup>き<sup>岸</sup>の<sup>光</sup> 鬼<sup>貫</sup>



秋道 秋より苗代江の稻のくけ 汶村  
 秋と紅葉のさや 摺のくへ 除風  
 川橋 川より舟ふもつて月味し 杜若  
 撥 扱られてもうた今も葉の転 此筋  
 三日月や 網を造るむ転の形 從吾  
 いちやてくしとこよ 転のだけ 二柳  
 松風の吹きまはしてせきれり 千代  
 相の本のさくはくや 怪れり 萩人  
 山風の吹きまはしてせきれり 空芽  
 並松や 二とら 透る波の音 孤山  
 霞の青けしつむや 風のさく合 紅石

秋

七月

五秋

ひろくと木葉初て秋と立 鬼貫  
 秋と中 露れり色毛の伝 浪化  
 才と秋の風とくても 轉るり 北枝  
 毛路の骨が ぬるりけり 角上  
 怪子の尻とくし ちけり 尚白  
 ひかりしこも 秋とくし 也有  
 かくや 待市ふとく 二柳  
 秋とくや 舟の音 児童  
 坂のまのまのふ せきれり 大江丸  
 ちやせのやりし せきれり 青蘿  
 才てのらも 木ぬあま ちや 蓼太  
 秋とくや くらり 楢の中 路健



秋林や霞まよひふりし雨 毛統  
 秋夜や波よこねはし角力え 采鑿  
 秋夜やわらふよこねは早のつら 二冊  
 秋夜や聲まよひしは松の道 松丸  
 七夕やまよひすまよひる川の流 錢並  
 七夕や戸閉まよひるおまよひ 前口  
 七夕やかみ川まよひる牛車 嵐雪  
 うねまよひる青七夕や市野堂 速雅  
 せうまよひるは虫まよひる 燕下  
 酒のつとねまよひる酒の心 去来  
 早合 早合のよれまよひる神と不 青羅  
 早合のまよひるはまよひる 涼虎  
 早合もまよひるの尾のまよひる 几董  
 清への敷まよひるはまよひる 園女

枕洗 七夕や枕のまよひるはまよひる 吉女  
 龍橋 都やまよひるのまよひるはまよひる 大江丸  
 天の川 様まよひるまよひるのまよひるはまよひる 此筋  
 大切まよひるまよひるのまよひるはまよひる 其角  
 天の川まよひるまよひるのまよひるはまよひる 蘭更  
 月まよひるまよひるのまよひるはまよひる 珈涼  
 盆月 魚の月まよひるまよひるのまよひるはまよひる 野矢  
 秋夜 秋まよひるまよひるのまよひるはまよひる 青雅  
 墓まよひるまよひるのまよひるはまよひる 外七  
 城のまよひるまよひるのまよひるはまよひる 蘭更  
 魂索 まよひるまよひるのまよひるはまよひる 乙由  
 傳まよひるまよひるのまよひるはまよひる 卓袋  
 泥足 まよひるまよひるのまよひるはまよひる 泥足



野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂

野坂







秋雨

秋風や巻くふくくもはる 曉臺

秋の白骨まききり 露庭

秋の白鳥の尾のちりりなり 孤倉

菜島の一匹ひや秋のつら 李由

露

朝つちや飽のうらみ笑しく 吹峰

白雲のあけくち出ると露ふる 几圭

白雲や露のくちふいつけ 蕪村

大粒よ垂つちささるの乳 青蘿

我らぬ控まの世に海 大紅丸

音

枕柱の并ふや音のひいひい 北枝

音うたれ中のちりや音のね 卓夫

朝の音や音の音の音の音 毛仇

朝川やあはれ入音れ中 蘭更

稲妻

稲妻のれいとさうらうおめが 嵐青

稲つちのこれてはるるや 笠上 大草

いづつふもつちのうらみ 洞梨

いづつふもつちのうらみ 魯所

いづつふもつちのうらみ 露

稲つちやあはれ入音れ中 金羅

稲つちのねらうつしてそ京 史邦

稲つちやあはれ入音れ中 下代

秋のね 夕月ひらけりしりや秋のね 吾仲

嵐をま みるの後のまのつねれ 挑妹

女を花 玉川のあふふもつちのうらみ 芭蕉

夕のと秋たきさのまのうらみ 涼菴

今夕のうらみ 孫公利のうらみ 馬耳

ふけぬやまのうらみ 安求

女を花のうらみ 野重



あつたしんくわんくわん 希因

あつたしんくわんくわん 希因

あつたしんくわんくわん 希因

あつたしんくわんくわん 希因

秋海棠 あきあじ の後よけと如くつ秋海棠 あきあじ 香都良

栞樓 しかり あつたしんくわんくわん 露川

ひた田のひた田 ひた 栞樓 しかり 芭丹

栞樓 しかり 栞樓 しかり 栞樓 しかり 幾葉

あつたしんくわんくわん 芭蕉

あつたしんくわんくわん 蘭二

蘭 らん あつたしんくわんくわん 萬乎

あつたしんくわんくわん 青羅

あつたしんくわんくわん 青羅

あつたしんくわんくわん 青羅

あつたしんくわんくわん 昌房

あつたしんくわんくわん 其槽

あつたしんくわんくわん 北枝

あつたしんくわんくわん 玄梅

あつたしんくわんくわん 去来

あつたしんくわんくわん 諸九

あつたしんくわんくわん 蓼太

あつたしんくわんくわん 二柳

あつたしんくわんくわん 石圃

あつたしんくわんくわん 理玉

あつたしんくわんくわん 二柳

あつたしんくわんくわん 路春

あつたしんくわんくわん 有香

あつたしんくわんくわん 有香



野菊

簾不したくねてまゝう竹のむ 風國  
ゆくたの世菊れよこい流井 柳婁  
たりとらる人どまふ世菊井 杜宇

萩

まのれたち二花入瓶ふ萩のむ 專明  
水ありや萩鴨の歌 萩下 園更

白萩やいさひのるゝ萩 青羅

みづふふつひてまうは萩 鬼貫

萩垣ははかまきさるそのれ 黄唇

萩

風の音萩そとるに萩をらん 大江  
吹萩海ふふれて萩のこゑ 斗入

吹の目わよるうぬ萩のこゑ 蓼太

萩

あれとてさきふつひる芒井 芭蕉  
心連ふ風のこゝろし芒井 休計

萩のこゝろまふとて芒井 鬼貫

は萩まゝかありて芒井 希因

言はれはさひ風ふく芒井 二柳

夕言としくまうらる芒井 曉臺

刈りてもとのぬく芒井 几董

一のこのおまを芒井 園更

むくくとむりくと芒井 盛弘

むらさきの穂よせて芒井 萬子

秋の日は萩の村尾をぬ 青蘿

夕桐家の尾をふらけたり 祐昌

篠のまより揺る芒井 乙由

口切のやうにささる芒井 素寛

萩神舟のふらむ芒井 泊船

輪くまりの車も海一葉の芒井 水菴

山もや人のこゝろを芒井 仙化



稲葉 志代はくくはねいふまを井一英  
稲花 異としふのこつひつらつを遊力  
ひつらつを井一英

早稲 早稲のよや井中の屋の人と入 曲翠  
早稲のよや井中の屋の人と入 曲翠

子稲のよや井中の屋の人と入 支考  
子稲のよや井中の屋の人と入 支考

りんか門田のよ稲と知つり 之道  
りんか門田のよ稲と知つり 之道

露ま 露まのよや井中の屋の人と入 史邦  
露まのよや井中の屋の人と入 史邦

風仙 風仙のよや井中の屋の人と入 支考  
風仙のよや井中の屋の人と入 支考

西凡 猪の鼻くすつらん西凡のね 外七  
猪の鼻くすつらん西凡のね 外七

菌の飯の巻。いかに西凡井 梨旭

芋 芋のよや井中の屋の人と入 露川  
芋のよや井中の屋の人と入 露川

一葉 相の葉はあてもしも下よ度る 鬼貫  
相の葉はあてもしも下よ度る 鬼貫

暁のまこと中より一葉うれ 蓼太  
暁のまこと中より一葉うれ 蓼太

柳のよや井中の屋の人と入 土芳  
柳のよや井中の屋の人と入 土芳

せんくよあてくへ本権井 知足  
せんくよあてくへ本権井 知足

曉のよや井中の屋の人と入 乙由  
曉のよや井中の屋の人と入 乙由



虫

三日月の角のうらむ木槿并 希因  
 灯の光もさうな枝の心 蕪葉  
 素禪のうらむさかたけ 壺中  
 虫の音もあはれし中 園女  
 うらむつらさめさや秋の虫 文鳥  
 月清て虫あはれしの中 蘭更  
 虫の音もあはれしの中 青羅  
 虫の音もあはれしの中 乙由  
 葎声のさかたけ 乙由  
 茶鴉おひさしるさかたけ 雲鈴  
 さかたけいさかたけさかたけ 感字  
 程前かあてまはるさかたけ 菘人  
 のれいさかたけさかたけ 除風

葎

塙

人ちりた命さかたけさかたけ 夢太  
 居居居さかたけさかたけ 希因  
 寺さかたけさかたけさかたけ 二柳  
 軍とれく再さかたけさかたけ 青羅  
 後後さかたけさかたけさかたけ 木朶  
 後後さかたけさかたけさかたけ 千代  
 さかたけさかたけさかたけさかたけ 孤屋  
 陣のさかたけさかたけ 四條并 羅城  
 砂際浪さかたけさかたけ 惟然  
 砂のさかたけさかたけさかたけ 諸九  
 いさかたけさかたけさかたけ 圃更  
 ね虫とれさかたけさかたけ 車来  
 鈴虫のさかたけさかたけ 桃咲  
 鈴虫と車音のさかたけ 雪芝

鼈馬

ね虫

鈴虫



鈴や雨は千枝のやむよひ 二柳

鈴雪の雪やとらふふれは 曉臺

くさくさけあふくさくさけあふ 十明

くさくさけあふくさくさけあふ 四睡

くさくさけあふくさくさけあふ 色蕉

くさくさけあふくさくさけあふ 谷水

くさくさけあふくさくさけあふ 野徑

くさくさけあふくさくさけあふ 其由

くさくさけあふくさくさけあふ 麦光

くさくさけあふくさくさけあふ 野徑

くさくさけあふくさくさけあふ 波舟

くさくさけあふくさくさけあふ 曉臺

くさくさけあふくさくさけあふ 青蘿

くさくさけあふくさくさけあふ 支考

秋蝶

秋のくさくさけあふくさくさけあふ

秋蠅

秋のくさくさけあふくさくさけあふ

埜吟

酒の美よりぬとんの美地 古帆

桐

庭や庭しこり一葉の松 蝶夢

秋蝶

秋のくさくさけあふくさくさけあふ 示峰

秋のくさくさけあふくさくさけあふ 青蘿

秋のくさくさけあふくさくさけあふ 曉臺

八月

八月

八朔の朧の利さるぬます井 許六

八朔の朧の利さるぬます井 祐昌

田舎に 庭も枯も出 田舎の田つら 白雄

秋のくさくさけあふくさくさけあふ 木導



放養 山花や蕪草をつけて放生會 乙由

放生會花は丹にゆるりたり 萍花

約匠 約むらまは坂よりわたり 正秀

約実 糸をまはるる約実のりし 浪化

いづ約のまひやとねん晴の海 太祇

待宵 待宵の月やむらむら 正秀

待宵やねをまはるる 希因

待宵やねをまはるる 原松

待宵やねをまはるる 二柳

名月 名月やふるりたる 如元

名月やふるりたる 湖春

名月や里の匂ひのまよふ 木枝

名月や山よりつるりの音 岩角

名月やいとと煙草の線は 言水

名月や心おしほし 去来

名月や照るもろもろのし 芦本

名月や松の位にあつた 南谷

名月や揺れ動もふくす 乙由

名月や表のかつら 蒲盛

名月や鏡を反人もあやう 園女

名月の松いつくさね 怨風

名月や人に押あふれ 千代

名月やゆてし 嵐雪

今宵 仕合ふ胆の松うれはるの月 嵐雪

まよふらよ松とあやうの月

我門かふらふらふの月 青蘿

あのをよそふらふらふの月 土芳

月今宵 名月やとと柳とあやうの月 守武



月をみる松とある方け庭いり酒紅

赤星の秋のまをれ月とすひ 几董

月見 鐘とふと夜鈴の月とみ 洞梨

寺とあてはる月とみ月とみ 芭蕉

酒堂よ舟漕とみ月とみ 正秀

新月 秋月やそらふむふもとえ 舎羅

両月 名月のあねとまのほきもせん 十梅

十夜 家々小月の中とみ青 来山

いさよひの月引とるも根掛 宇鹿

十二の夜や言ふらね月の雪 儿董

三月 二月やすく楸の極の空けり 十丈

秋のや若の葉とれ月とみ月 杉風

二月月やとるふふとるもれあ 桃隣

月

蜀黍のまきつひものじり分 曉臺

井ののけあしりし月とみ月 仙行

根の本のまんとまると月とみ月 鬼貫

そのややあしりし月とみ月 元昌

いりつら松とみあしり月とみ月 春水

香焚て我とまひ月とみ月 海棠

月とみあしりつら月とみ月 近之

氣吹く月のあしりのまをす 青羅

風とれおとれまふ月の形 曉臺

あつしとまをす月のまをす 土芳

村のまをすて入るり月の月 大江丸

まをす本とまの月のまをす 尚白

秋の夜や月とみあしり月の形 斗入

あつとまをすて海の月とみ月 露川



無一さふものもこれの月夜に 松元

独の森よりうらやむ時の月 去来

月夜や雀ごころつく寂の中 田虎

星泉 世にまじり人よりひびく星月夜 雨聴

初夜 初夜やさくさく龍のくさくさして 蓼太

秋暮 死もせぬ旅路のそよ風のれ 芭蕉

深きよの鶴うめてし秋のくれ 乙由

大さくおのこさひとら秋のくれ 角上

ものつてぬ人そらうさく秋のれ 乙由

秋ぬまえせと秋の秋のくれ 雲鼓

秋のくれ時のきふも廿日比 千梅

秋のくれ酒うれまにん秋のれ 野坡

日あふりや多秋さうつく秋のれ 正秀

梓さく巫女も惚ろく秋のれ 言水

秋夕 夕ぐれハ種とカヤ寺のあは 風國  
竹まきあそび火くみ秋のくれ 儿董  
柱まハ心もよみ秋のくれ 青羅  
居風言小味つく秋のゆきお 水魚

秋夜 簾つふぬや暖うら秋のくれ 正秀  
ひるさか風吹のてその秋のくれ 支考  
おひひよ露てまはつら秋のくれ 枳色  
松人と撞木も麻さる秋のくれ 大性  
おとりのあまよりつらの秋のくれ 青羅  
けしのつらさうたの秋のくれ 也有  
木花よとね成つたての秋のくれ 風麦  
秋のくれの月夜やまのくれ 鬼貫

秋夜 秋のくれの月夜にひびく 由仙  
夕ぐれあのみまも市にさく秋のくれ 大江丸



机き くりとて机をたねの柱うれ 蘭更

御多 やまをよそふのむし捕ふ所 風國

秋夜 やまをよそふ早稲のひつらのつらま 野童

秋夜 秋の夜やまをよそふとまをよそふ 松泊

秋夜 秋の夜やまをよそふとまをよそふ 北枝

秋夜 秋の夜やまをよそふとまをよそふ 其葉

暴風 暴風の夜やまをよそふとまをよそふ 塵生

暴風 暴風の夜やまをよそふとまをよそふ 句空

暴風 暴風の夜やまをよそふとまをよそふ 秋航

暴風 暴風の夜やまをよそふとまをよそふ 希因

暴風 暴風の夜やまをよそふとまをよそふ 也有

暴風 暴風の夜やまをよそふとまをよそふ 青蘿

暴風 暴風の夜やまをよそふとまをよそふ 燕村

暴風 暴風の夜やまをよそふとまをよそふ 山児

色蕉 月夜て茶をよそふとまをよそふ 七

色蕉 月夜て茶をよそふとまをよそふ 乙由

色蕉 月夜て茶をよそふとまをよそふ 蒲道

色蕉 月夜て茶をよそふとまをよそふ 青蘿

色蕉 月夜て茶をよそふとまをよそふ 知白

色蕉 月夜て茶をよそふとまをよそふ 牧童

色蕉 月夜て茶をよそふとまをよそふ 曉臺

色蕉 月夜て茶をよそふとまをよそふ 言水

色蕉 月夜て茶をよそふとまをよそふ 二柳

色蕉 月夜て茶をよそふとまをよそふ 大江丸

色蕉 月夜て茶をよそふとまをよそふ

色蕉 月夜て茶をよそふとまをよそふ

色蕉 月夜て茶をよそふとまをよそふ

色蕉 月夜て茶をよそふとまをよそふ

色蕉 月夜て茶をよそふとまをよそふ

色蕉 月夜て茶をよそふとまをよそふ

色蕉 月夜て茶をよそふとまをよそふ

色蕉 月夜て茶をよそふとまをよそふ



種瓢 二つおく人の心の中をふくむ 生餅

白りしをい昔はふねへ 凡兆

推察 市人の心もあはれ天 凡 柑雪

冬凡 市人の心もあはれ天 凡 柑雪

鳥凡 市人の心もあはれ天 凡 柑雪

舟凡 初下舟あはれ天 凡 千代

舟凡 初下舟あはれ天 凡 千代

舟凡 初下舟あはれ天 凡 千代

舟凡 初下舟あはれ天 凡 千代

舟凡 初下舟あはれ天 凡 千代

舟凡 初下舟あはれ天 凡 千代

舟凡 初下舟あはれ天 凡 千代

舟凡 初下舟あはれ天 凡 千代

舟凡 初下舟あはれ天 凡 千代

舟凡 初下舟あはれ天 凡 千代

舟凡 初下舟あはれ天 凡 千代

舟凡 初下舟あはれ天 凡 千代

舟凡 初下舟あはれ天 凡 千代

舟凡 初下舟あはれ天 凡 千代

舟凡 初下舟あはれ天 凡 千代

舟凡 初下舟あはれ天 凡 千代

舟凡 初下舟あはれ天 凡 千代

舟凡 初下舟あはれ天 凡 千代

舟凡 初下舟あはれ天 凡 千代

舟凡 初下舟あはれ天 凡 千代

舟凡 初下舟あはれ天 凡 千代

舟凡 初下舟あはれ天 凡 千代

舟凡 初下舟あはれ天 凡 千代

舟凡 初下舟あはれ天 凡 千代

舟凡 初下舟あはれ天 凡 千代

舟凡 初下舟あはれ天 凡 千代

舟凡 初下舟あはれ天 凡 千代

舟凡 初下舟あはれ天 凡 千代

舟凡 初下舟あはれ天 凡 千代

舟凡 初下舟あはれ天 凡 千代

舟凡 初下舟あはれ天 凡 千代

舟凡 初下舟あはれ天 凡 千代



木つたの入口より敷のね 文章  
こつとや櫃の老木さ森にもとる 蕪村

百舌鳥 草まよ鶴の心ばいらくり 野坡

栗採や月入をく鶴のうゑ 曾米

鶴鳴て風腹さあつこれ 圃更

鶴鳴や夕日の影さ枝の末 也有

弱鳥 篠竹の弱鳥もく撞ひやあつは 沾葉

孫も 夕れとてぬす孫の羽を我 一保

鶺鴒 せまぬや壁土さぬる畔の上 磨盤

燕 くるまよとてたてられて鳴く 即高

そよとそよとそよとや鳴く 瓢竹

そのつら小鶺鴒のきけりし我 希因

風つ小冊く保まのやせ鶺 曉臺

く〜れとも秋風忘る鶺鴒 千代

鴉 ころしと去風さる 葵抄 鶴立

鳩吹 鳩のやとととととととととと 托巾

山伏の鶴ふくさよ入ふり 嘯山

蘇 へいふふふふふふふふふ 圃更

鳴きやうとけい倉とぬりし我 一口

鞋 鞋の末てあの上まゝむら根抄 風孤

鞋をんて〜 彼のころ川辺抄 圓木

糸 おとととととととととととととと 蕪葉

おあしし小尻のおれ峰の糸 惟然

おれれとととととととととととととと 萬守

おととととととととととととととととととと 杜若

麻のまや角のらららららららららら 白楸

鳴つておととととととととととととととととととと 轍土

ふあやあ〜らたてて麻のま 希因



陽川  
 木導  
 蘭更  
 大江丸  
 蕪村  
 千代  
 雲口  
 野坡  
 正秀  
 探芝  
 大江丸  
 如泉  
 蕪村

也也  
 馬印  
 陽和  
 大曹  
 希因  
 湖天  
 秋色  
 蕪村  
 魯江  
 蓼太  
 大虚  
 蕪村  
 乙由  
 孤屋

稻



田刈

箱とける板も掛一ふ家掛 馬印  
箱刈や 稲刈も 秋も 稗枝

落穂

田刈のおもふふなからうて 田刈部 也有  
落穂ひうふ 穂うり 乙由

栗

落穂拾ひ日あり 乙由  
栗のこも 枝とて 浦の釣糸掛 支考

栗

栗畑のねくまて くり入日掛 空芽

九月

九月

あぐらに九月は 和や 藪のそり 水魚

重陽

ひの菊中 福の飯のそり 掛 戈磨

九月ふきく 秋穂も 白桂 待彼

つらねいり 十月や 外 宇月

出代

出代や けいふと 出来 金毛

音

つる不もの音 白のそり 八来

浜をた鼓う しの 其角

たつこ ぬもの 葉ま 千代

葉畑ま 風ま 佐角

新二歌ま ぬ 杉風

ま 希因

す 也有

心 燕村

時 青蘿

月名 正秀

外市 浮風

八合の月 雨聴

牛系 燕村

軒 立吟



菊

若木枝の赤さしやれけむ 支考

白さみの霞さしきくむ

乙由

木導

水汲の赤さしけむのまき 支草

嵐蘭

越人

千梅

佃房

千代

蕪村

圃更

大江丸

雨汀

菊

月夜さしきくむのまき 青蘿

亀世

座羅

蕪村

吾仲

惟然

甲乙

大江丸

支考

李由

蕪村

寒太

支考

圃更



葛葉集 木の葉のよもひはしきるおほい

作古

松 松のよもひはしきるおほい

祐昌

木葉 木の葉のよもひはしきるおほい

季里

板葉 木の葉のよもひはしきるおほい

鬼貫

梨 梨のよもひはしきるおほい

大江丸

栗 栗のよもひはしきるおほい

鬼貫

栗 栗のよもひはしきるおほい

射江

栗 栗のよもひはしきるおほい

青蘿

栗 栗のよもひはしきるおほい

牡羊

栗 栗のよもひはしきるおほい

凡兆

柿 柿のよもひはしきるおほい

大祇

柿 柿のよもひはしきるおほい

利牛

栗 栗のよもひはしきるおほい

佐美

栗 栗のよもひはしきるおほい

支考

へつへつと熟材はるる白歌

さしーと暖味はるる支考

五のや二斗とる枝の指しり 沾徳

推 推し入横川の川の流れ 蕪村

推葉 推葉の月刈とる枝の指しり 二柳

未枯 未枯の葉穢とる枝の指しり 北枝

未枯 未枯の葉穢とる枝の指しり 曉臺

今年 今年とる枝の指しり 几童

今年 今年とる枝の指しり 大江丸

水上 水上の波とる枝の指しり 古帆

綿 綿のよもひはしきるおほい 富定

柚葉 柚葉のよもひはしきるおほい 涼菟

落葉 落葉のよもひはしきるおほい 重頼

落葉 落葉のよもひはしきるおほい 嵐雪



懐紙や一階はつたらの音 春燈

鞠引 引よてふ砂とてしんがうが 白扇

菖蒲 うつらまゝ魚の位やあやふ 大州

稲丸 稲丸のいんぎすあつた下月

七里 秋うつらうつらしたる夜 七里

支考 燈ははすこ秋しとてあ辰うね 支考

千川 けしきあぢちうらうらとてあ辰うね 千川

榊大 雁はまゝあつらんとしてあ辰うね 榊大

毛純 松茸のまのひくれる夜うね 毛純

青蘿 灯火は風うつらうつらとてあ辰うね 青蘿

几董 仁れちや門のあつたを夜 几董

大魯 よそのあはれあぢちうらうらとてあ辰うね 大魯

千代 音あつてあはれあぢちうらうらとてあ辰うね 千代

雪芝 露あつてあはれあぢちうらうらとてあ辰うね 雪芝

露隔雨 かしやせて木まゝしうらやあ辰うね 幾驩

希因 露のまのしよつと日やあ辰雨 希因

露川 冬は 匠月も出てはるやあ辰のまゝ 露川

蕪村 秋晴 戸を叩く狸と秋を晴まゝの 蕪村

昌碧 昔秋 秋はれとてあはれあぢちうらうらとてあ辰うね 昌碧

色蕉 行秋 秋はれとてあはれあぢちうらうらとてあ辰うね 色蕉

乙由 行秋 秋はれとてあはれあぢちうらうらとてあ辰うね 乙由

大草 行秋 秋はれとてあはれあぢちうらうらとてあ辰うね 大草

牡羊 行秋 秋はれとてあはれあぢちうらうらとてあ辰うね 牡羊

越人 行秋 秋はれとてあはれあぢちうらうらとてあ辰うね 越人

二柳 行秋 秋はれとてあはれあぢちうらうらとてあ辰うね 二柳

大江 行秋 秋はれとてあはれあぢちうらうらとてあ辰うね 大江



初陽の ひとくちの 霜の 奥の 山に 初陽雨 支考  
 秋の 葉の やわらぎの 志の 初陽雨 許床  
 松の 葉の やわらぎの 初陽雨 前口  
 丘の 頂の 白ひちやの 初陽雨 野坂  
 其の 葉の やわらぎの 初陽雨 乙由  
 初陽の 雨の 初陽雨の 初陽雨 西吟  
 空の 雲の 初陽雨の 初陽雨 諷竹  
 雲の 霧の 初陽雨の 初陽雨 青蘿  
 傘の 雨の 初陽雨の 初陽雨 淡々  
 巾の 雨の 初陽雨の 初陽雨 蘭更  
 袴の 雨の 初陽雨の 初陽雨 千代  
 袴の 雨の 初陽雨の 初陽雨 白空

いさよ 巾の 雨の 初陽雨の 初陽雨 去来  
 袴の 雨の 初陽雨の 初陽雨 李由  
 袴の 雨の 初陽雨の 初陽雨 木因  
 袴の 雨の 初陽雨の 初陽雨 浪化  
 袴の 雨の 初陽雨の 初陽雨 野坡  
 袴の 雨の 初陽雨の 初陽雨 乙由  
 袴の 雨の 初陽雨の 初陽雨 北枝  
 袴の 雨の 初陽雨の 初陽雨 野坡  
 袴の 雨の 初陽雨の 初陽雨 去来  
 袴の 雨の 初陽雨の 初陽雨 宗座  
 袴の 雨の 初陽雨の 初陽雨 三岐  
 袴の 雨の 初陽雨の 初陽雨 知外  
 袴の 雨の 初陽雨の 初陽雨 水因  
 袴の 雨の 初陽雨の 初陽雨 青蘿



何事成んや青と村うれ 歳入

是悪も取くくし時ゆ、山陰部 空芳

ひりしと沈の事夏村ぬる 壺中

雪の事ゆよ文のやのふと 朱拙

押あふと相いものう十一日部 野坡

十月 十月のひいりつたは鳴まうぬ 縣草

十月の人まきさうの月叔のぬ 五明

小月 鴨のねよんたり小六月 甫尺

初冬 初冬や白湯の味ある後夜は 千梅

小春 小春の雲のふよめりて小まか 鬼貫

初春 初春にして出れ小まきれを我 李由

初春 初春のねのまお子この小まきれ 涼備

初春 初春とこしを念ふとくし初送 ころ

初送 初送

書了ものと初れいさうし初送 鬼貫

い里の年のまきさけ初送とく 木枝

去楮 梳の形るおよそいれいさう楮が 除風

まきしと餅振るれおの初 徐寅

色まぬつておのことさうぬき内 太袿

蓮の志 蓮の志とちやまきとぬる孫氏 白雄

芭蕉の志 芭蕉の志とて佛と唱んはりうぬ 二柳

芭蕉の志 芭蕉の志とて其角の餅の冬牡丹 大江丸

十月やと初とくし初送とく 大魯

町合 町合とてとくし初送とく 芭蕉

上人の鼻よ痛おけ町合は 史邦

町合はとちの子の上の麻は 奚魚

上系や月お初とくし町合は 儿董

十叔 小坊主の伯父とあさう十叔が 乙由



下系のくしてのよこも十枚部 許六  
 沖大は鴨居のひくも十枚部 岱水  
 白のちの障へひくも十枚部 千梅  
 居風占とふるちられも十枚部 史邦  
 蓮代のおとらうひのち十枚部 涼備  
 郭既のこておらうも十枚部 也有  
 あさこもと系したらうも十枚部 蕪村  
 ろの湯ふまこもせらうゆえ哉 芭蕉  
 玉養百人あさこもらうこし 山庄  
 水く哉内美のちら二枚部 嵐竹  
 ひくもあまもらうこし 戒講 去来  
 せれこのちあけおや戒かや 杜若  
 ちくたうも梅もらうこし 戒法 暁臺

取歌

巻後

おまや葉冷ゆる梅の枝 芭蕉  
 おしちやうてのうふ河の柳 史邦  
 おしちや余よこもる後れも 野坡  
 何物そらうひもこらうをねあひ 一枝  
 ねをねやあひしりるふ 正秀  
 戸よこらうおの葉葉竹の門 横草  
 隠家や原もらうひもらうお 路通  
 ひのこに列ていねのちあお 惟然  
 からくとおらう梅もらうお 芭蕉  
 有めらうらうのよまのちあ 騏道  
 ろのちのちらうておの池川 馬肝  
 ちの葉日の時てさうのちあ 田中  
 赤しとをねあもらうらうのち 蘭更  
 是道は麻の毛もらうを白し 大江丸

おま

おま



系柱

松枝の芳気をおのひくうれ 大江

利牛

風

風や天井くくの堂の内 林紅

本柱のあけりふやとつ折 夫軒

風や敷のまうとく鳩の音 雨邑

風よこころうりときもはにけ 乙由

風や井又かぐりてまじうら 道彦

風よ紅の鮎ひらひ入に井 露沾

風や穂たきくほの香ふらん 山醉

風よとこころのささりや麻の角 元梅

風よいつとらうりそやる 性 正秀

風のおのあられやるの鈴 陽和

風や露ふかしくつくと 蝶夢

おきやとらぬつとらぬ 遅望

おき

おきりのおきさうらん 氷谷

おきやとくえすく 萬年

おきやひらりふねさ 畦足

おきや人のとけん 挑隣

おきや尾よの尾を つれて 諸九

おきやまもしねく 巴人

おきや松のふし 百谷

おきや香那のつら 佐角

おきや小坂よよく 配力

おきやまはりのこの 青蘿

おきよまきまきせり 鳥明

おき水や鏡とひねる 其角

おき川の底うら 燕下

おき風の水とらけい 氷谷

氷

おき

おき

おき

おき

おき

おき

おき

おき

おき



有明のそよぐ水盛る柳宇路

あまのすくに氷るや流のう 柳雨

氷柱 虫形葦あやゆふあやもあやねあやつらあやかあや 物丸

招吹て横よりうの山辺うね 来山

氷 氷して月うしねはあのを 可董

冬月 瓦屋の光流しあきの月 千梅

居風呂の房もつれはあき月 露川

あき月夜ととます。荒井 木尊

あき月らー豆腐ふ梅のむ 乙由

あき月らうとと平の荒ふね 團更

あき月の名のきくきり梅井千 白柳

くら風の氷田ふねてきく井、 序令

あき月のうらむさうととあき井 去来

あき月のうらむさうととあき井 路通

寒

あき月ねや柳よととあき井の音 探芝

あき川の二階はねりてきく井 風國

あき月のうらむさうととあき井 荊口

小原風よ葉と扱うととあき井 斜嶺

鴨のびもきくきり梅井 汶村

あき月よ難ひくきくきり梅井 麦光

葱白く洗ひよととあき井 芭蕉

あき月曲てあき月梅井ととあき井 草離

あき月ねねらうととあき井の音 白雄

あき月定てあき井の中のはらけ井 斗入

あき月たてる鶴のと毛のきく井 大江丸

あき月あき月後梅井ととあき井 和及

あき月あき月己ひくきくきり梅井 芭蕉

あき月のうらむさうととあき井 諸九

冬



を我 嵐もやそねり人をも我 其角

唇のきりぎりすを我 涼菴

さしむらひ橋をてを我 風律

居眠りてを我にうれを我 蕪村

常の果の隣をを我にあり 青蘿

文松 冬を我の破を今朝をを我 芭蕉

冬を我やひとり牡丹のちを我 千代

冬を我や冬を我を我にありて 窓巴

茶切 口切や五山を我にありて 蕪村

舟閑 舟閑やそありて我にありて 杜若

舟閑やそありて我にありて 杜若

舟閑やそありて我にありて 杜若

巨連 茶を我言を我にありて 芭蕉

茶を我言を我にありて 芭蕉

茶を我言を我にありて 芭蕉

茶を我言を我にありて 芭蕉

茶を我言を我にありて 芭蕉

茶を我言を我にありて 芭蕉

茶を我言を我にありて 芭蕉

埋火 火を我言を我にありて 二柳

火を我言を我にありて 二柳

火を我言を我にありて 二柳

火を我言を我にありて 二柳

火桶 白川の浪を我にありて 其角

白川の浪を我にありて 其角

白川の浪を我にありて 其角

白川の浪を我にありて 其角

白川の浪を我にありて 其角

白川の浪を我にありて 其角

火筒 火を我言を我にありて 芭蕉

火を我言を我にありて 芭蕉

火筒 火を我言を我にありて 芭蕉

火を我言を我にありて 芭蕉

火を我言を我にありて 芭蕉

火を我言を我にありて 芭蕉

火を我言を我にありて 芭蕉



指の火けたらつひ終つてさうさ 猿丸

世に戸とすすみららるる指火井 仙李

炭 炭とくさむさくさくあつて森耳井 嵐雪

うらぬや火多田をそとて家とあま 大魯

灯とたてるひまぬ炭火のらん井 臥央

炭籠 炭籠のひらうとらうらんそこの雨 其角

炭籠や街のほろの自筆紙とて 大魯

炭籠 炭のぬや好ぬらりて炭籠 半隠

炭籠や炭籠人さそとて炭籠し 青羅

炭籠 炭籠さうぬの芒とほけさう 蕪村

炭籠さうぬさうさうさう 炭籠 蘭更

炭籠 炭籠さうさうさうさうさう 北群

炭籠 炭籠さうさうさうさうさう 蕪村

月さうさうさうさうさうさう 蘭更

紙のさうさうさうさうさう 諸九

紙の 月さうさうさうさうさうさう 蘭更

風さうさうさうさうさうさう 杉風

風さうさうさうさうさうさう 大魯

帛 帛巾さうさうさうさうさう 二柳

帛巾や丸さうさうさうさうさう 葉文

帛巾さうさうさうさうさうさう 菅蘓

帛巾さうさうさうさうさうさう 蘭更

酒籠 酒さうさうさうさうさうさう 十代

酒さうさうさうさうさうさう 白雄

枇杷 酒人の白ひさうさうさうさう 鬼貫

酒さうさうさうさうさうさう 野坡

酒さうさうさうさうさうさう 吾仲

酒さうさうさうさうさうさう 史邦



いしの屯もつしあかひのり 蕪村

山菜を ぬくけいけいんもつしあかひ 苔蘚

いんちやとる徳臣の「いんち」 二柳

茶を 茶の心の中へいけいなるる 千山

おきおのたしあかひあまふ 去来

茶をちやあまふあまふあまふ 浪化

茶をのちやあまふあまふあまふ 涼菟

茶のちやあまふあまふあまふ 蕪村

茶をちやあまふあまふあまふ 曉臺

茶を 履のくちあまふあまふあまふ 牛寂

白水の流もつしあかひあまふ 木導寺

おきおのたしあかひあまふあまふ 月尋

大いこの流もつしあかひあまふ 逸漢

おきおのたしあかひあまふあまふ 蕪村

中列て物々々宿の房をみ 大江丸

木菜 あまふあまふあまふあまふ 祐昌

茶を 時あまふあまふあまふあまふ 樽良

枯柳 雨をちやあまふあまふあまふ 石丈

これませて撫もつしあかひ 涼備

冬牡丹 あまふあまふあまふあまふ 團水

鏡もつしあかひあまふあまふ 乙由

水仙 花のちやあまふあまふあまふ

あまふあまふあまふあまふ 李冠

あまふあまふあまふあまふ 序令

あまふあまふあまふあまふ 野坡

あまふあまふあまふあまふ 大江丸

あまふあまふあまふあまふ 蕪村

寒菊 室のちやあまふあまふあまふ 菽子



空を染むしつり秋を花も 杜若

空を染むも麦は二匹の心 白圖

枯葉 炭屑は小砂 枯葉白り 儿董

枯草 ねね近れ草の枯葉は雨を 千梅

枯萩 萩枯てる葉のゆき道ごとく 惟然

枯萩 一時の萩のこころ 窓巴

枯芒 気をつけてみる程を 杉風

枯尾毛 おまふして水は入ぬ 團更

あつこふ振るもめぬ 暁臺

枯尾毛 ねねはうさうてられまう 斗入

枯芦 枯芦はあの日暮のさけ 二柳

芦枯てるともいふんはのち 團更

枯草 月いさうけさまたしく 蕪村

枯草 竹の中なるまのつゝ 團更

枯叶 鶴を鳴 枯叶は行く白鳥 扣雅

鳥はけりや 枯叶は 秋之坊

の鶴の地よりさうふの 康工

はくさうは 枯叶は 乙由

綿棉は 枯叶は 其角

さうさうは 枯叶は 蓼太

ぬつくりと 枯叶は 暁臺

とを 枯叶は 蕪村

石 下刈の 養浩

流石と 碧川

夕付日 半残

まぶさ 乙由

細代 何之

田の 近之



細谷

桂のしるこ白る細代の無部 曉臺  
川つやもく吹ぬらん細代も 其繼

お波のよはらもきつて細代も 也有  
孫えよ月くそ歩ま細代も 牧童

水魚

月くひのくひけていよ水魚部 松笠

水

深波よ浪のくもや言は夢 我々  
あまをとりあつちりふおほし 蕪村

あまや秋のひもちる人のこる 青蘿

あまの浪よ魚つくとつが 乙刈

海つらぬや空の菜類炊 千那

街

猿坂つらぬおまぬ街 元灌

雪ふんく足控てくれ鳴街 杜若

おまも供のあひまはじり 風律

おのりてかいられくまぬも部 曉臺

鴨

きくぬきさのちりややぶ草 儿董

村雨よ青もきちりちり 蕪村

くら流るるくはゆるも 門瑟

まねを身よとつちぬ鳴街 松元

雨やんてせとるるふも部 大石丸

やららふふとつちや鴨の角 雪芝

けららもつちとつちや鴨の 芭蕉

鴨鳴ちとつちぬ田のまら 二柳

外鴨の浪は海こよも月お部 風律

鶯

鶯のよくやめつと為氷 文里

鶯の歌あうしとみみひり 曉臺

鶉

鶉つげのあしふらやみこ 吾仲

くまらふらふらふらや牛の鞍 歌扇

桑

桑のよめおし水一振のき 北枝



鳥

冬や雪やみ月も入一後 蝶夢  
まきや雪のねせらるの松 鬼貫

鳥

海系や一添氷る雪の冬 除風

鳥

雪が枝やけふも海あらしむの冬 蜂房

鳥

雪が枝やめをともみはしむる冬 麦水

暖

冬依ふとめてねせらるる冬 尺素

冬

枝のゆぬ雪やつらぬ冬 枝東

冬

雪帽の影さうや冬 許六

冬

ねうして牡丹よさぬ冬 二柳

十一月

十二月

かんが月豆腐のうしろ嵐の夜 杉風

冬

一しなる雪もはらるる冬 朱迪

冬

雪の尾のそくくたやをむら 乙由

北山の日をせらる冬 玉抄 石蘭

江波越て冬玉の加句たり 苍洲

冬

雪もや吹のそなへ 秋心 栗山

冬

雪もや吹のそなへ 秋心 栗山

冬

雪もや吹のそなへ 秋心 栗山

冬

雪もや吹のそなへ 秋心 栗山

冬

雪もや吹のそなへ 秋心 栗山

冬

雪もや吹のそなへ 秋心 栗山

冬

雪もや吹のそなへ 秋心 栗山

冬

雪もや吹のそなへ 秋心 栗山

冬

雪もや吹のそなへ 秋心 栗山

冬

雪もや吹のそなへ 秋心 栗山

冬

雪もや吹のそなへ 秋心 栗山

冬

雪もや吹のそなへ 秋心 栗山

冬

雪もや吹のそなへ 秋心 栗山



神抄

細月の影ありし形よりそなたは方紫雲  
 一しやう歸て平雨のそなたは 魯中  
 瓢箪のりりよせぬきや神抄 子葉  
 揃ハハ何となくそなたは 木尊  
 夏よりつる暗きや神抄 曉臺  
 秋よりたれはくそなたは 蕪村  
 冬よりあふれよそなたは 希因  
 春より月影ありそなたは 夢太  
 夏より形とすけりそなたは 杜若  
 秋よりいふやそなたは 獅吹  
 冬より雪のこもやけとの雪 乙由  
 春よりあふれよそなたは 其角  
 夏よりいふやそなたは 圃更  
 秋よりいふやそなたは 杜若

雪

さよ〜〜雪とてぬす一衣 千那  
 雪降や半は後のる猶ふらん 望翠  
 神鳴よ雪ありそなたは 如行  
 雪の日や人をちりくはぬ小き 嵐彈  
 小枝まや雪との依とけいなる 風國  
 梳り星の音やそなたは 夫州  
 暁とさうらう〜〜る原雪井本 自樂  
 雪よ出て雪のことふらうらなる 一音  
 大日枝や小日枝ふれけい雪 蝶夢  
 白雪の中ふ灯よりぬきそなたは 夢太  
 冬ハ枝あり雪のぬきくれ 几童  
 春とつる雪をふらうらなる 松兄  
 夏とつる雪のぬきけい雪 湘水  
 秋とつる雪のぬきけい雪 涼菟

雪



雲吹

月夜し言ふし言ふうと部 秋多堵

雲車

ひつとねく雲を吹くや冬和 萍丸

栗

みさうや郭のそく倫り時 平爽

去屋のちもたれしれ部 史邦

毎のまふの水よかたぬる真井 夢太

霞

秋田は居れなうりくまうね 昌房

播磨の山田よりうりくまうね 正秀

あまの太前とととつれ部

ぬくひくまのたうる雲井 泥足

信らうは淋しうりくまうね 友静

信をちやま月夜と格りの明 白雄

冬の信月あまうりくまうね 曉臺

人あやあたらこめて大根引 風國

大根引

ましくと格引もるや大根引 也有

葱

大根引て松風のきくうりく 大江丸

葱やひよと格引ぬる 狹 猿雖

葱くぬぬぬんや法の器もの 嘯山

葱漬 梅系の中ままよらぬる部 楠芽

下菜 けしのまをくうりく下菜 髭風

茶食 ちやせはしせぬやうは茶食 也有

茗湯 我のまけはぬぬくうりく湯部 蕪村

板焼 冬料理網と板よぬる部 自柳

貝焼

緩汁 けり何ともぬきよとてくけ 色蕉

緩くうてくぬるのうりくふり 鬼貫

人いひくぬるといひけん 大祇

緩くへい佛も我もぬりけり 大江丸

緩汁の布ありくと灯より 蕪村



ふくとけかききたる喰はる 希双

納豆 納豆もろとたれや塔の雲たじ 丈艸

生海鼠 木の樫のやうに思へん生海鼠 乙由

おひつていふとあふむねのまゝに 蕪村

梅よこへまのけおされて海鼠 二柳

乾蛙 乾蛙も空也の寝もまごの中 芭蕉

うらやまのれたふへおれもの 祐昌

から蛙と鳴りくわやけつ 雪芝

繻 霞や繻の吼もまの海 曉臺

七浦の人ともうと繻とる 仄尺

叔貝引 我まよ月おちれて叔貝引 二齋

十二月

海を いろはり海をの海のうらつり 芭蕉

世の中い抱うう上の海をが 如行

おこやん小角豆も市の海をが 正秀

西岸の海をふふる雀くれ 乙由

冬形ものへ海をの平睡が 萬海

急もぬくてぬらぬ海をが 乙州

それおの身よの海をの風が 青蘿

日ころの音も海をの市の雲 二柳

こころくと栗つふを海をが 曉臺

磨賣 いろしふ道る年と磨賣 白雄

暁八 暁八よ山田の信おぬらり 諸九

暁八 やとふ林つゝ傍一人 圃更

寒念仏 寒念仏も念佛向る房い中からん 康樂

父もぬく母もかくだきと念仏 大江丸

寒念仏や水もる証を青谷 諸九



深ひまふたふたの夜にさきさき 青蘿

門さふあれまきまのききぬ 鬘風

佛舎 仏名やふあななることの中一 許六

寒入 氷りしし梅や花なるそこの入 二柳

松元 庭ひらうらうらや氷水のきこの入

寒月 さうたや一里さうらうらまぢき 山父

燕村 さうたや門ふさ寺のまきし

寒声 さうたや南大門のまきし 其角

嘯山 さうたやいづら氷床人のまきし

寒垢 寒垢さうたやまれもまきしは 二柳

寒梅 さう梅も花ひるさう雲れ上 蓼天

橋木 寒梅もさうたやませらさうの朝

桐氷 さう梅も花ひるさう人の灯け 桐氷

千代 さう梅も花ひるさう昔のさうはり

梅さやきさの月夜の朝やけ 大江丸

冬後 ぶんさうさう屋の雨やさうさう 曾木

一枝 さうれ袖も床もさうさう 一枝

古帆 大山梅 雲ふんさう大山と出や梅さう

望翠 衣配 衣配いさうぬれぬのせりさう

乙由 梅拂 さう拂やさうもぬくさうの中

芭蕉 さう拂はさうぬれぬさう大さう

乙由 さうさうさうのさうさうさうさう

太魯 さう拂やさういさうさうさう

藟子 さうさうさうさうさうさうさう

几北 さうさうさうさうさうさうさう

五丸 さうさうさうさうさうさうさう

園更 さうさうさうさうさうさうさう

希因 さうさうさうさうさうさうさう



節事 せせは報謝のふねうけり 鬼園

廿二日 せせはや月ふつ 浪化

節分 豆と赤声の中なる笑ふ 其角

鬼が赤太のや豆の煮え 猿雖

焚賣 焚は價出と日ふ影りかたり 柳水

鬼あつてくわもふしつ 杵賣 杵丸

年忌 魚煮のわい 芭蕉

赤人の心ふらうて 乙州

本座のちもあつや 幽泉

人んしつや年のこと 杉風

といふすれしねや 曲翠

あかきま 祐昌

年忌 居風 乙由

くわい 千代

年のうらみ 大魯

常の麻恋 希因

まふ 亀洞

ねせぬまのねと 大丸

灯火のたより 鬼貫

一儀の巻や 諸九

子の尾より 乙由

子の尾とあつて 乙由

年木 けしき 瓢竹

溪の戸より 竹阿

年市 雪かき 乙由

年の市 乙由

年の市 乙由

年市 松風 乙由

年市 乙由



世日 望けりしたのむもろく世日 蝶夢  
大音 鶴下る日くそららぬ大音 其用

あつし月京の栞や大二十日 移竹  
日一人よあまの一日くぬ 仙化

ゆ年 けじや本紫交のくく屋 沙明  
ゆ年やつらやふくれ半の角 青華

ゆい けいもゆるるそえ書 其用  
ゆいも源の内然うも髪 米弱

ゆい けいもゆるるそえ書 其用  
ゆいも源の内然うも髪 米弱

ゆい けいもゆるるそえ書 其用  
ゆいも源の内然うも髪 米弱

ゆい けいもゆるるそえ書 其用  
ゆいも源の内然うも髪 米弱

拾のいけさかひわれしれくれ 芭蕉  
養よりし日もあつらやと其書 斗入  
年守 とうちおれいさくもれれろ 蕪村  
大音 大くくや親子像のさくふまひ 萬手  
大音や難波堀の鴨の夢 春鏡

四季の世後句集 大音







中条  
百五十二

管

Handwritten text in vertical columns, including the characters 中条 and 百五十二, which correspond to the markings on the left page.





